

派(派)74-14

中近東アフリカ技術協力計画に
基づくアラブ海洋乗務員養成機関
調査報告書

昭和49年10月

国際協力事業団

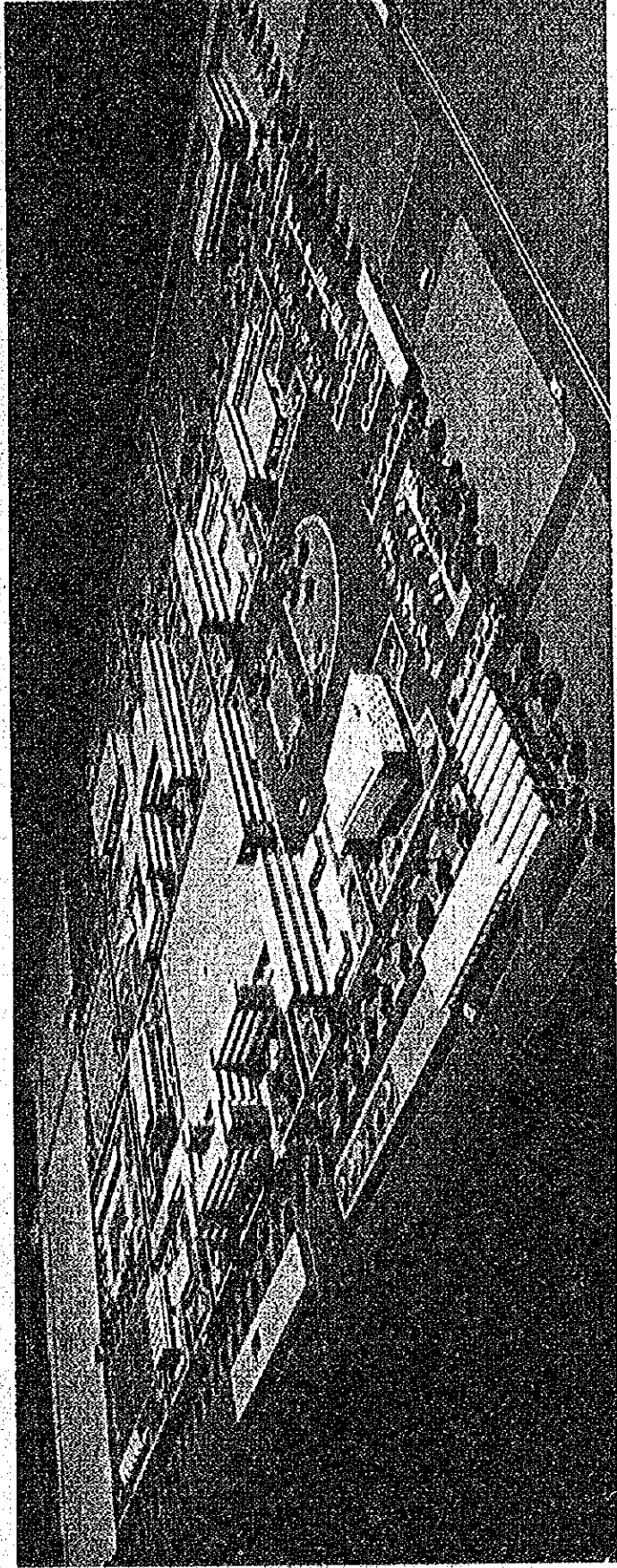
JICA LIBRARY



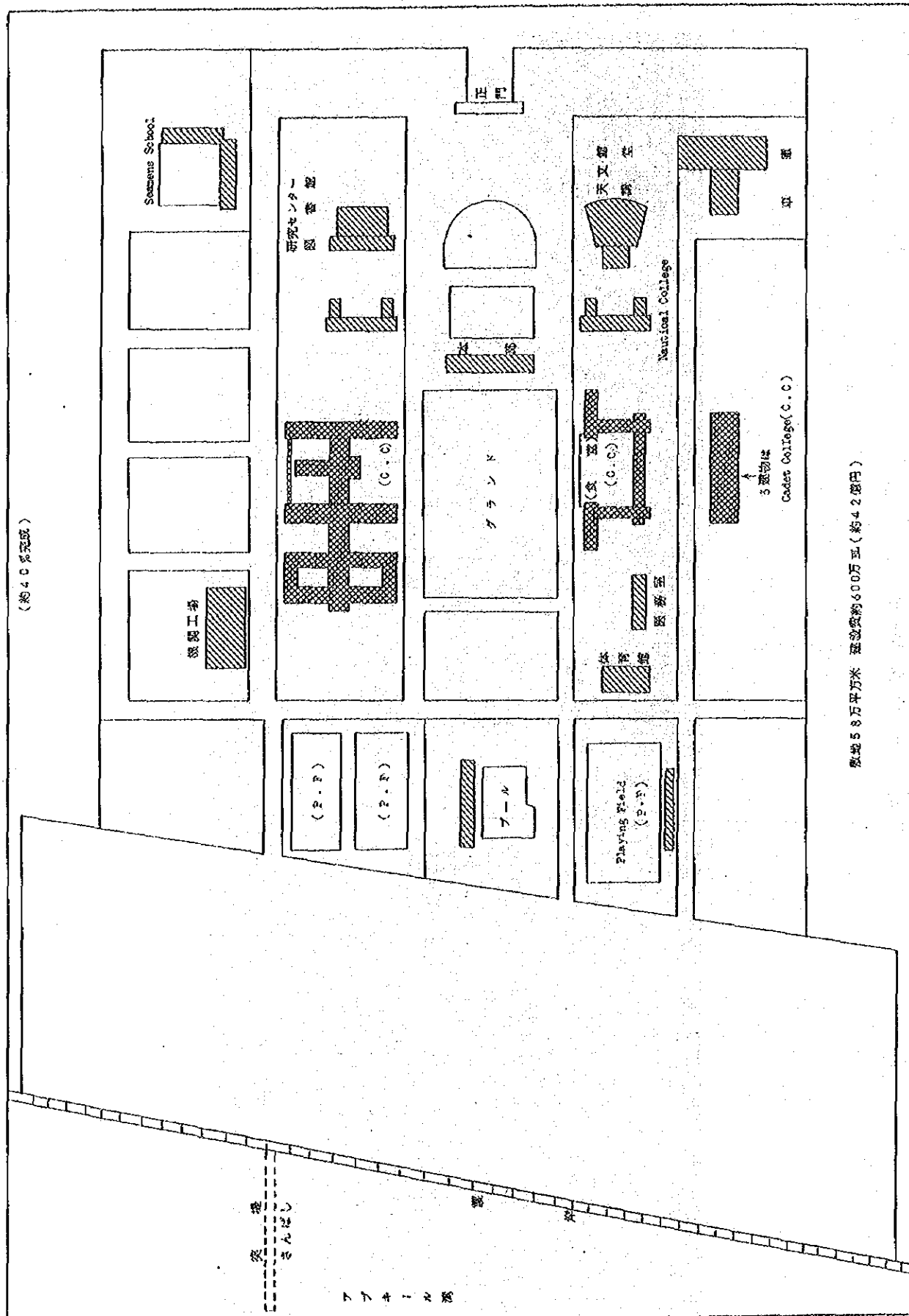
1043742[4]

国際協力事業団		
受入 月日	'84. 3. 27	300
登録No.	02613	65.7 EX

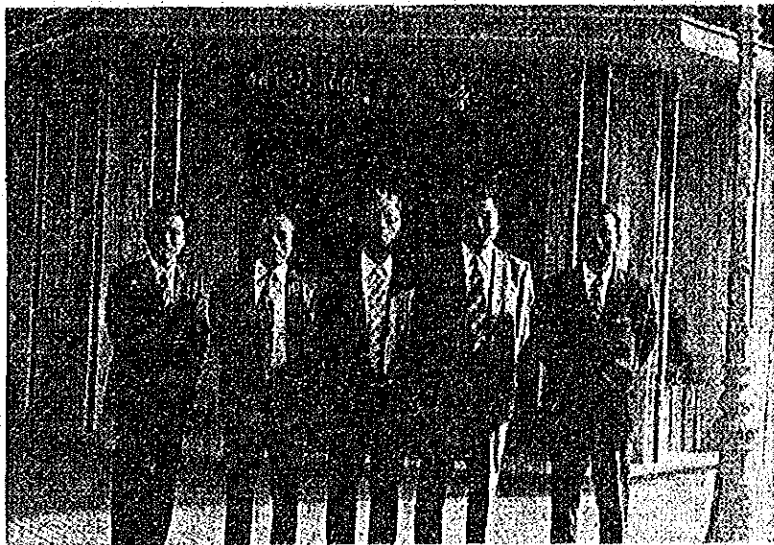
A M T A 完 成 予 想 図



(約40系完成)



敷地58万平方米 建設費約600万円 (約42億円)

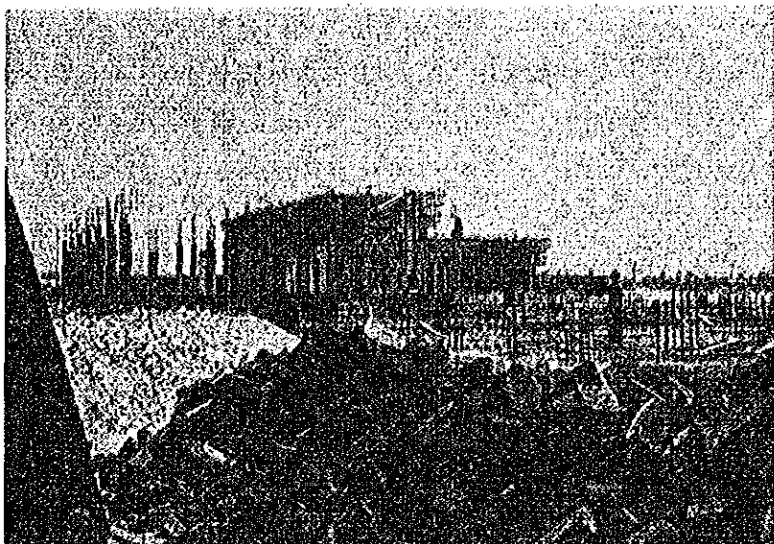
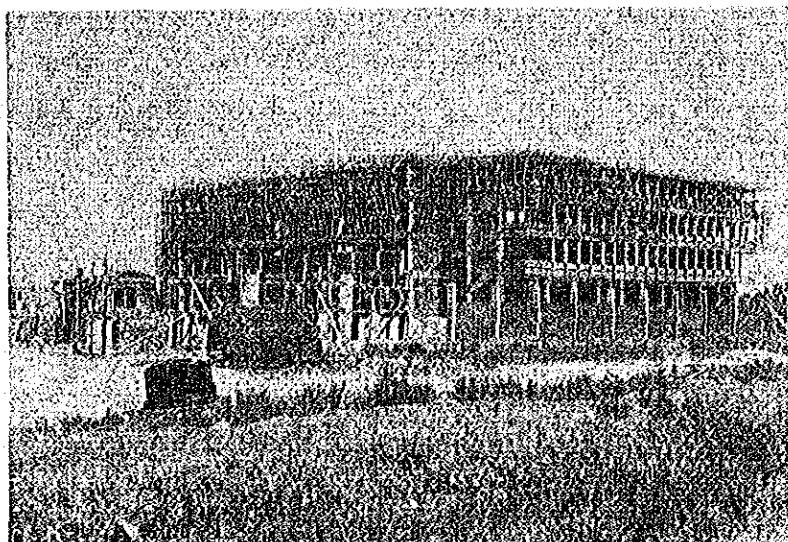


予備調査団一行

左より、石井団員、渡辺団員、土屋団員、斎藤団員、岸本団員

(AMTA本部玄関前)

(右、下)
建設中の校舎



目 次

1. 調査団派遣要請の背景と調査目的	1
2. 調査団の編成	2
3. 調査のための準備作業	2
4. 日本大使館の協力	3
5. 調査日程	4
6. 調査概要	6
6.1 アラブ諸国の概要	6
(1) アラブ諸国とアラブ連盟	6
(2) エジプトの概要	6
(3) その他の国の概要	11
6.2 Arab Maritime Transport Academy	14
(1) 経緯と計画	14
(a) AMTA 成立の背景とその概要	14
(b) 目 的	15
(c) 作業計画	15
(d) 組 織	25
(2) AMTA の現状	25
(a) 組織と陣容	25
(b) 財政的諸問題	27
(c) 建物および教育機材	27
(d) 教育要員	28
(e) 学 費	35
(f) 各教育機関等の現状	35
(3) AMTA の日本に対する協力要望事項	40
(4) 日本派遣専門家に対する待遇	41
6.3 エジプト政府およびUNDPとの会談	41
6.4 スエズ運河	43
7. 所 見	46

添付資料

団長挨拶

収集資料名

地 図

1. 調査団派遣要請の背景と調査目的

1.1 要請の背景

アラブ産油国にあっては、自ら取得する原油の輸送を自国のタンカーによりたいという強い意向を有し、その他のアラブ諸国にあっても国際収支状態の改善という見地から自らの商船を持ちたいという意向のもとに、1970年3月、アラブリーグの第53回運輸通信理事会において、アレキサンドリアのAbu-Kirにアラブ諸国の海洋乗務員の養成のためのArab Maritime Training Academy (AMTA)、(旧称Regional, Maritime, Training, Institute)を1977年までに新設する計画を決議した。

当初リビア、スーダン、シリア、イラク、エジプトの5ヶ国がこの計画に参加し、エジプトが代表となって1971年 United Nations Developing Programme (UNDP) に対し、この施設の設置に関する技術、および資金の援助を正式に要請した。その後クエート、サウジアラビア、バハレーン、アラブ首長国連邦、北イエーメン、南イエーメン、ヨルダンの7ヶ国がこの計画に参加した。1972年1月、UNDPから230万ドルの援助の約束を得、同年3月アラブリーグの12ヶ国の運輸通信理事会において、AMTAは1972年から発足すること、施設建設は1972年3月から5ヶ年計画とし、1977年に完成すること、この期間の必要経費の分担は下記のとおりであること、すなわち、

UNDP— 訓練機材、専門家派遣、研修員の受入	2,300,000 US\$
関係アラブ諸国— 運営費	2,087,000 L.E
エジプト— 土地、建物、および調度、UNDP 供与機材以外の訓練機材	3,341,500 L.E

等が決議された。

(注) L.Eは、エジプトポンドの略。1 L.Eは約2.3 US\$ (約700円)である。

しかし、UNDPからの研修設備だけでは不十分であり、また最近の建設資材、研修諸設備の価格高騰で全体の資金計画に狂いを生じてきた。さらにアラブ諸国からは通常の商船についてのコースの他にタンカー(LPG船を含む)や漁船についてのコースに対する要望も強く、こうした分野をもカバーし得るようにするためには、当初計画の大巾な拡大が必要となってきた。したがって、1974年1月22日AMTAのG.A. Moukhtar 総長は、在エジプト日本大使館経由、外務省に研修設備の供与、研修員の受入れ(実際の乗務訓練等)、UNDPを通じての、または独自のルートによる教習専門家の派遣、教習専門官の養成等について日本の協力を要請してきた。

1.2 調査の目的

中近東、アフリカ技術協力計画による対アラブ技術協力は、AMTAの公的窓口機関であるエジプト政府の海洋乗務員養成に関する技術協力要請に基づいたものであり、その調査の目的はAMTA、

アラブリーグ、エジプト、およびUNDPの具体的な協力関係と内容の把握、AMTAの建設計画と船員養成計画、1972年から実施している仮校舎の教育施設の現状と教育内容、Abu-Kirに建設中のAMTAの建築の進捗状況等を実施調査することにより、AMTAに対する技術協力援助の必要性とAMTAの如何なる分野に我が国が技術協力をなしうるかを調査することであった。

2. 調査団の編成

予備調査団は下記5名で編成された。

団長	土屋 博	運輸省首席海技試験官
団員	渡辺 亘	〃 七尾海員学校長
〃	岸本 佳治	〃 航海訓練所研究第二課長
〃	斉藤 充央	〃 教育課海技制度調査官
〃	石井 和男	国際協力事業団派遣第二課員

3. 調査のための準備作業

調査に先立ち調査団は次のような準備を行なった。

3.1 予備知識の入手

- (1) アラブリーグおよびエジプトの一般社会情勢および一般教育事情等についての各種文献をエジプト大使館等より入手すると共に、外務省中近東課事務官、出木場功氏より現地事情についての話を聞くなどしてエジプトに関する予備知識の蒐集に努めた。
- (2) 清水海員学校を訪問し、日本における海員学校の施設の現状を見学した。
- (3) ブリヂストン液化ガス船川崎製造所および同所に係岸中の三光汽船のワールドブリヂストン号を訪問し、LPG船の構造設備、LPGの荷役等について見学した。
- (4) 川崎汽船のタンカー大津川丸を訪問し、タンカー船の構造、設備、荷役自動化システム等を見学した。

3.2 調査のための諸準備

- (1) 外務省、OTCA、国際協力室、船員局および航海訓練所の関係諸機関による合同会議を催し、エジプトにおける調査項目ならびにそれに対する調査方法と調査対象機関について検討を行ない、その結果をふまえ調査リストならびにエジプト政府およびAMTAに対する質問状(英文)

を作成した。

- (2) 調査日程表(案)を在エジプト日本大使館に送付して現地関係諸機関との協議検討を依頼し、その結果による調査日程表を入手した。
- (3) AMTAの教育設備のチェックを容易にするため下記資料(英文)を作成した。
 - (a) 我が国海員学校の実習施設、設備の基準案
 - (b) 我が国海員学校のカリキュラム
- (4) 健康診断を受けると共に腫痘、コレラ、黄熱病の予防注射を行なった。

4. 日本大使館の協力

AMTAへの日本の技術協力要望は、G.A.Mouktar AMTA総長から直接和田大使になされ、大使がその重要性を充分認識された事もあり、今回の調査団の調査に際し日本大使館から全面的な協力を受けた事を深く感謝するものである。

カイロ着後、現地アレキサンドリアに出発前には大使自らのエジプト一般情勢、この調査の重要性等の説明、小島一等書記官、小野二等書記官からの現状の詳しい情報の提供、調査日程のアレンジをうけ、さらに非常に多忙な中を小島一等書記官は8月3日より同5日までアレキサンドリアに同行、AMTAとの重要な会議に出席された。

その他スエズ運河の視察等公私にわたり日本大使館の厚い協力を得た。

5. 調査日程

月日(曜)	訪問先	面談者	調査内容
7月31日(水)	東京		
8月1日(木)	カイロ		
	日本大使館	和田大使 小島書記官 小野 //	表敬、調査訪問目的の説明 } 調査日程の概要打合せ
2日(金)	UNDPカイロ事務所	安積副所長 (小島書記官同行)	AMTAに対するUNDPの協力内容について説明を受ける。 大使主催夕食会出席
	夜、大使公邸	和田大使以下、大使館員 (小島書記官同行)	
3日(土)	カイロ→アレキサンドリア		
4日(日)	AMTA本部	Commodore G.A. Moukhtar (総長) Cap. M. Zakallah (プロジェクト・マネージャー) Commodore A. Sadek (教育部長) Commodore M. El Amir (Cadet College 校長) Commodore F. Nasr El Din (College of Nautical Studies 機関学部長) Cap. A. F. Assad (CNS. 航海学部長) Dr. A. Abdel Monsef (College of Maritime Studies 校長) Commodore A. Riad (施設部長) Omar El Hassan (渉外部長)	調査目的の説明 Academyの運営に関し詳細な説明を受ける。
	Cadet College	Commodore M. El Amir	現状および将来計画について説明を受ける。
	建設予定地 (Abu-Kir)		建設現場視察
	AMTA本部	総長、安積副所長	建物の推抄状況を詳細に説明を受ける。
5日(月)	アレキサンドリア港	港湾公団総裁	表敬
	海運省	海運大臣 首席次官	表敬、調査目的視察、AMTAに対するエジプトの協力内容について説明を受ける。
6日(火)	College of Nautical Studies	Commodore F. Nasr El Din Cap. A. F. Assad	現状および将来計画について説明を受ける。
	School of Specialist Seamen		”
	実習艇グィーナス号		実習艇の設備視察

月日(曜)	訪問先	面談者	調査内容
8月7日(水)	AMTA College of Maritime Studies Research Center 図書館	教育部長他4名 Dr.A.Abdel Monsef	AMTAの教育システム内容等について説明を受ける。 現状および将来計画について説明を受ける。 " "
8日(木)	AMTA本部 夜、Palestine Hotel	総長 プロジェクトマネージャー 教育部長 総長他	最終打合せ 会食
9日(金)	アレキサンドリア→カイロ		
10日(土)	カイロ→ポートサイド	小島、小野書記官、エジプト外務省儀典課員 Canal Shipping Agencies Co.社員同行	ポートサイド港視察
11日(日)	(予備日)		
12日(月)	日本大使館 カイロ	小林参事官、小島、小野書記官	調査結果報告
13日(火)	↓		
14日(水)	東京		

6. 調査概要

6.1 アラブ諸国の概要

(1) アラブ諸国とアラブ連盟

いずれもアラブ民族で構成され、イスラム教によって統一されている国々であり、次の18カ国がアラブ連盟を作り、相互の結合意識が強い。

エジプト、アラブ首長国連邦、アルジェリア、イエメンアラブ共和国（北イエメン）、イエメン民主人民共和国（南イエメン）、イラク、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、シリア、スーダン、チュニジア、バハレーン、モロッコ、ヨルダン、リビア、レバノン

アラブ連盟は、1945年3月カイロで調印結成されたアラブ諸国の地域的協力機構で、加盟国は上記18カ国、ほかにパレスチナアラブの代表がオブザーバーとして参加している。最高機関は理事会で、全加盟国の元首が出席し、理事会の下部機構として専門分野別に常設委員会があり、カイロに事務局が置かれている。

(2) エジプトの概要

(a) 面積、人口、気象等

面積100万km²（日本の約2.7倍）。人口3,410万（1971推定）。住民は、アラブ系エジプト人が98.5%を占め、全人口のほとんどがエジプト全面積の $\frac{1}{30}$ に相当するナイルの三角州とその谷間に押込められており、世界屈指の人口過密地帯となっている。人口増加率も高く（2.24%）、エジプト経済にとって重大な問題となっている。

アラビア語が公用語であるが、英語、フランス語もよく使われる。宗教はイスラム教が91.6%と大半を占めているが、ほかにコプト派キリスト教（7.1%）などがある。

気象については、北部の平均気温夏季28.3度、冬季13.3度であり、冬に多少雨の降る三角州の地域を除いて、空は一年中青いまま、今日も明日も来週も同じ天気であることは確実である。空気が乾燥しているので、夏でも高温のわりに比較的しのぎよく、冬は快適である。

(b) 政治情勢

(i) サダト施政の特徴

- ① 1952年革命理念に基づくアラブ社会主義国家の建設。
- ② 大統領への権力集中排除（ナセル体制への反省）と三権分立を建前とする法治主義の徹底。国民の政治参加と民主主義の高揚。
- ③ 外交基本政策としては、アラブ民族主義、反帝、非同盟主義、善隣外交の推進。政治的手段による中東紛争の解決。

④ 教条的社會主義からの脱却及びこれに伴う対欧米、対日関係等自由主義諸国との関係緊密化の努力。

(b) 国内政治の推移と現状

1970年9月のナセル死後、サダト大統領は1971年5月、アリ・サブラらの指導部内権力グループを一掃してサダト体制を確立し、同年9月恒久憲法を制定するとともに、国内建設と文盲追放等国内社会の近代化を指向し始めた。

しかしながら、1973年10月6日第四次中東戦争が勃発し、再び多額の軍事予算を戦争に投入することとなり、国内社会の近代化も中断を余儀なくされようとしたが、10月22日一応の停戦実現、ジュネーブにおける和平会議の帰すうはなお多くの問題点をかかえて楽観は許されないものの、サダト大統領としては、アラブ諸国の支援取付けに成功しており、今後政治的解決に相当の努力を傾注していくものと思われる。そして、一日も早く20年来の長い中東紛争から脱却し、おくられている国内経済社会の開発に専念し得る態勢を作り上げようとしている。

(c) 経済情勢

(i) サダト政権の経済政策

① 対外的には、従来の対ソ一辺倒の路線を修正し、近隣アラブ諸国はもとより、日本、アメリカ、西欧諸国等からの経済援助をひき出すとともに、これら諸国からの投資を促進する。

② 国内的には、戦争直後からの極端な輸入抑制策を緩和するとともに、為替管理を緩和して優先外貨制度を導入し、輸出意欲の促進を図る。

(ii) 経済の現状

エジプト経済は、67年中東戦争直後の混乱期を脱し、ここ2～3年は順調な成長を上げてきている。これは、外貨の流入により投資のソースが潤沢になったこと、極端な輸入抑制策が緩和され、原材料部品が供給されるようになったこと等が理由として考えられる。10月戦争も当国経済に深刻な影響を与えてはいないものと見受けられ、逆にこれを契機に経済開発への気運が高まっている。

(注) エジプトの会計年度は1973年から暦年と一致することとなった。

農業は、その生産額において全体の30%、労働人口の $\frac{1}{2}$ 、輸出額の60%を占めており、綿花、小麦、米、柑きつ類、野菜、とうもろこし等を生産する。

工業は、鉱業とあわせて国民総生産の約25%を占め、その75%以上がパブリック・セクターによるものである。主産業は、繊維工業及び食品工業であるが、最近では重化学工業の伸長率が大きい。

石油は、1,000万トン～1,200万トンと産出低下気味となっているが、これは技術

的理由による減産のようである。

(v) 新経済政策の推進

エジプトは、新経済開発10カ年計画を1973年1月から実施しており、その大綱は次のとおりである。

- ① 10年後に国民所得を倍増する。
- ② 10年間に農業部門は50%、工業部門は120%の成長を図る。
- ③ 消費の伸び率を年5%とし、貯蓄率の増大を図る。
- ④ 輸出を振興し、前半の5年間で国際収支を黒字にする。

以上であるが、具体的には、外貨の導入、一連の規制緩和措置の実施、石油開発の推進、SUMEDパイプライン計画の推進（スエズとアレキサンドリアを結ぶ石油パイプラインで、フランス、イギリス、日本を含む国際借款によって1971年着工）、スエズ運河の再開、アラブ域内開発の促進等があげられている。

(a) 教育の現状

国民の60～65%がいまなお文盲であるとはいえ、エジプトがこの四半世紀の間に成し遂げた教育改革はすばらしいものがある。

教育は特権階級の人々だけの権利ではなく、普遍的で自由でなければならないとされ、国のすべての子供たちは等しく無料で初等教育を受ける権利を与えられた。教育予算も著しく増大され、1969～70年の間に、小学校では適齢児童全員の席を準備することができるようになった。（学校数7,816）また、教育のあらゆる段階で、女子学生数が増大したことも見落してはならないことである。

教育制度は6-3-3-4制で小学校は義務教育である。

(i) 小学校

6才～12才の6年制で学資無料、昼食は無料で支給される。

(ii) 中学校

12才～15才の3年制で、競争試験によりある標準に達した子供だけがこの課程に進むことができる。

(iii) 高等学校

15才～18才の3年制で、普通高校と農業、工業、商業の職業高校がある。普通高校は、生徒の能力に従って文科系と理科系の2部門に分類され、文科系の生徒は大学の工学部に入る資格がないというように、各部門の卒業生は大学の一定の学部だけに入学が許される。

(iv) 大学

総合大学5校と単科大学があり、4年間の課程が普通であるが、医学部のみは6年半

である。さらに、大学卒業者が高度に専門化した研究をするための多くの研究施設がある。

大学の代表的なものには、カイロ大学（21の学部と研究所）、アレキサンドリア大学（15の学部と研究所）、アインシャムス大学（9の学部）等がある。

1970～71年度の大学生数は20万人を超え、全人口に対する大学卒業生の割合は世界で最も高い国の一つとなっており、文盲率60%と矛盾した「逆立ちしたピラミッド」の奇妙な状況となっている。

(d) その他

1975年までに文盲率を今の半分に減じ、また、1980年までに成人の文盲を皆無にするよう職場、刑務所、村の社交センター等いたる所で文盲根絶のための講習会が開かれている。

(e) 海運の概要

(i) 所有船舶

エジプト国営タンカー会社である United Arab Maritime Co. 及び Naqr Oilfield Co. の所有するタンカー船隊は、1973年末において5隻 93,883 D/W（3.4万 D/W 1隻、1.9万 D/W 1隻、1.6万 D/W 1隻、1.3万 D/W 1隻、0.9万 D/W 1隻）であり、これらのタンカーは主としてエジプトの製油所向け原油輸送及び若干のエジプト産原油の外国製油所向け輸送に就航中である。このほかにも1972年6月末で国営、民営あわせて、貨物船45隻13.7万トン、その他64隻3.6万トンがある。

なお、1972年7月末には一般貨物船8隻4.2万 D/W をアレキサンドリア、ポートフェイド等の造船所に発注しており、また、1973年末現在3万 D/W 型タンカー1隻の発注を交渉中であるが確定していない。

(ii) 主要航路

地中海、アメリカ、極東、オーストラリア、北海、紅海の各方面に就航している模様であるが定かでない。

なお、漁船は大西洋まで出漁しており、スエズ運河開通後はインド洋まで出漁したい意向があり、漁業の開発には政府に意欲的なものが感じられる。

(f) 港湾施設

(i) アレキサンドリア

T字型の半島によって東港と西港に分かれ、東港は浅く漁船専用、西港は商業用で二つの防波堤で保護されている。内港の埠頭の長さは全部で4マイル、深さは17～30 ftで石炭船用の係船所（12）、客船用埠頭がある。外港は、埠頭の長さ9,000 ft、深さ24～28 ftである。

港湾施設の合理化、近代化はおくれており、コンテナ埠頭もないが、将来拡張発展させたい意向は強い。また、アレキサンドリアには年間1,250万トン生産の輸出用製油所（SUMEDパイプラインによりスエズから原油の供給を受ける）を建設すべく、4億ドルの借款取り付けを計画中であるので、いずれこれら石油精製品輸出のためのプロダクト・キャリア専用栈橋等が設けられるものと思われる。

(ii) Ibrahim

Port Twefik 島にある大きな停泊区で、吃水 28.5 ft 1.8 万 D/W 級タンカー用突堤が 7 つあり、新しい突堤には吃水 42 ft 6.5 万 D/W 級タンカー 2 隻が着岸できる。係船所と国有の石油精製所を 7 つのパイプラインが結んでいる。

(iii) ポートサイド

ポートサイドにおける施設の状況は後述によることとするが、同港西岸にはコンテナ埠頭新設予定地が確保されている。

(c) 造船

ソビエトの援助によって建設されたアフリカ最大の Alexandria Shipyard がある。12,000 トン級の造船能力を持つ船台を有し、その建造計画によれば、エジプトの自国船 26 隻、ソビエトの 7.7 千トン型貨物船 20 隻及び中型タンカー 30 隻が発注されている。スリップウエー 2 基の設備がある。

(d) 船員

アレキサンドリアにおいて実施中の Arab Maritime Transport Academy による船員養成の現状及び将来計画並びに海技資格取得制度等については、あとで詳述されているので省略する。

(i) 船員数

職 員	{	deck	1,736 人
		engine	775 人
部 員	{	deck	12,000 人
		engine	
		catering	

職員の多くは、海軍出身者、大学の船用機関学部卒業者等である。

(ii) 将来の養成計画

	1975年	1976年	1977年
職 員	90 人	100 人	200 人
部 員	150 人	150 人	150 人

ただし、部員には司厨部員は含まれていない。

(3) その他の国の概要 (Academy参加の主な国のみ)

(a) アラブ首長国連邦

国土は大部分が砂漠。形式としては連邦組織を持っていても、実際には7首長国の寄合い所帯であり、それぞれの首長の血縁関係などがあって、その人間関係は複雑である。隣接するサウジアラビア、オマーン及び対岸のイランとの外交関係に最も意を用いている。社会制度がおくれており、他の先進アラブ諸国からの人材を登用することも少なくない。人口は21万。近年石油利権収入等により急激に近代的国家に変わりつつある。アブダビ、ドバイなどペルシャ湾の港市としての商業機能のほかは見るべきものはないが、日本による石油資源開発等が行われつつある。

(b) イエメンアラブ共和国 (北イエメン)

面積19.5万km²。人口573万。全人口の90%は農業人口で、長年の内戦等のため経済危機が続いており、国連を始め、ソ連、エジプト、中国などが教育、軍事、経済の面で援助を行っている。国民のほとんどは文盲である。

(c) イエメン民主人民共和国 (南イエメン)

1967年11月独立。1970年11月に国名を現称に改めた。面積28.8万km²、人口128万の共和国。アラビア語及び英語が使用される。外交上は社会主義諸国と関係が深く、開発計画もこれらの国の援助によるところが多い。

全人口の90%が農業に従事し、漁業は東部沿岸地域で年間7~8万トンの漁獲があり大部分が輸出される。近代工業はアデンの製油所以外はほとんど見るべきものがない。

(d) イラク

面積43.5万km²、人口944万(1970年)の共和国で、農業、石油、牧畜が主な産業。石油はイラク財政を支える主要財源であり、輸出の93%を占めている。工業化の面においては、この十年来、大小の企業の国有化の方向で近代化を図っているが十分な成果をあげていない。工業製品の大部分は主としてソ連圏諸国からの輸入に頼っている。

教育・文化については、文盲率87%で初等教育は義務教育であるが進学率は必ずしも高いとはいえない。教育制度は初等6年、中等5年、高等4~6年の3段階。総合大学の国立バグダード大学が1958年に建設された。

海運については、国民は古来海洋知識に乏しく海運にはあまり関心がなかったが、近年経済開発が進展するにつれて、自国船の増強に強い意欲が出てきており、原油輸出の増加に対し、3.5万D/W型タンカー7隻、24.6万D/W(1973年末)が就航中であり、さらに現在12万D/W型タンカー数隻の発注を引き合っている。海運会社は国営のIraq Maritime Transport Co.のみである。

(e) カタール

アラビア半島の東部、ペルシヤ湾南部に突出した首長国。大部分は不毛の砂漠で面積1.1万Km²、人口16万。1971年9月独立。多額の石油収入をもとに、肥料、セメント、製粉工場の建設、ドーハの新港建設及び国際空港の拡張、道路整備などの事業が着実に進んでいる。

(f) クウェート

面積1.6万Km²、人口47万(1965)の立憲君主国。国土のほとんどは平坦な砂漠で夏季の暑さは厳しい。経済の支柱は石油で、その生産量は中東第一位。政府は近代化を推進する必要から教育の普及、医療施設の完備に力を入れている。

教育制度は、小、中、高校と4-4-4制で6才から14才までの教育費は衣料に至るまで無料。高校卒業生の80%は政府丸抱えでカイロその他海外の大学へ留学する。

海運については、20万D/W型タンカー3隻、5~6万D/G型タンカー3隻計79.5万D/Wを有し(1973年末)、なお、1973年末において3隻のVLCC(39.5万D/W型、32.8万D/W型、27万D/W型各1隻)が発注済みとなっており1976~77年には竣工の予定である。Kuwait Oil Tanker Co.がある。

(g) サウジアラビア

面積214.9万Km²、人口687万(1966)の砂漠の王国。主要産業は石油で、石油から得る莫大な利益で目下産業の総合開発、文教・社会福祉政策の振興に努めている。

教育制度は、初等、中等、高等学校とも全額国庫負担であり、師範学校、女子専門学校のほか各種技術の専門学校、三つの大学等がある。また、国費による海外留学制度の奨励など教育制度は質量ともに著しく改善されつつある。

海運については、1973年末現在でサウジアラビア国営タンカー会社Petroshipが2.7万D/Wタンカー1隻を所有するに過ぎないが、74~75年引渡しの4万D/Wタンカー2隻を発注中である。

(h) シリア

面積18.5万Km²、人口457万の代表的アラブ国家の一つ。アラビア語が公用語であるがフランス語は最有力の外国語である。中東有数の農業国で食糧は豊富。工業化への関心は強いが、鉄産資源、エネルギー資源の不足が障害となっており、熟練工、技術者の不足も深刻である。

国民の40%が文盲であるが、小学校3,500、高等学校500、師範学校9、大学2等がある。

(i) スーダン

面積251万Km²、人口1,570万(1972)の共和国。北部は比較的農業が発達し、総人口の38%に当るアラブ系住民が住み、未開発状態で多様な部族を持つ南部住民との対立はこ

の国の深刻な問題である。農業、牧畜が経済の基盤をなしており、工業化はほとんど進んでいない。

教育・文化については、文盲率 85% で学齡児の 13% しか就学していない。生徒数は初等学校 49 万、各種中等学校 8.7 万、大学は総合大学 2 校、単科大学 3 校があり、学生は約 8,000 といわれる。

海運については、割合に関心高く、国営の Sudan Shipping Line があり、貨物船 9 隻 (3.4 万 G.T)、他 5 隻 (1,120 G.T) を有し、ポート・スーダン、イギリス及び北欧間の航路に従事している (1972)。1972 年 7 月末貨物船 2 隻 (2.8 万 D/W) を海外発注している。

(j) ヨルダン

面積 9.7 万 Km²。人口 214.5 万 (1967)。住民はほとんどがアラブ人であり、アラビア語と英語が使われている。国土の大部分が不毛の砂漠で農牧畜が主な産業であるが極めておかれている。国内に産業が少いので潜在的な失業者が多く、出稼移民が多い。

教育・文化については、7 年間が義務教育となっているがまだ就学率も低く、文盲率も高い。大学 1 校がある。

(k) リビア

面積 179 万 Km²、人口 194 万 (1972) の共和国。ほとんどが砂漠で人間の住める土地は総面積の 6.8% である。石油資源が経済の基盤である。

教育・文化については、文盲率 73% と高いが学齡児童に対しては義務教育制がとられている。総合大学 2 校と教員養成、農業、美術工芸、技術などの単科大学や専門学校がある。

海運については、現在タンカーは所有せず僅かに内航貨物船 8 隻 4,694 G.T.、他 5 隻 1,238 G.T. を有するのみであるが、石油開発の進捗に伴ってタンカーの必要性が痛感されており、国連の援助によりタンカー船隊運営の訓練、組織化を行っている。そして、次のとおりタンカーを発注しその船隊充実に努めている。

4.7 万 D/W 2 隻 (スペイン、74 年竣工予定)

5.6 万 D/W 2 隻 (日本、74 年竣工予定)

11.8 万 D/W 2 隻 (日本、76 年竣工予定)

12.0 万 D/W 2 隻 (ユーゴ、不明)

3.0 万 D/W 4 隻 (ユーゴ、不明)

15.2 万 D/W 3 隻 (スウェーデン、76 年竣工予定)

港湾施設については、Marsa El Brega は最大船型全長 1,000 ft 吃水 55 ft のタンカー用石油積出し棧橋があり、Tobruk は古くからの輸出入港で 10 の錨地があり、吃水 30 ft の船 6 隻が同時に停泊可能である。また、将来 10 万 D/W タンカー停泊可能の新ターミナル

建設の計画を持っている。Toriporiはアフリカ北海岸で最も立派で安全な港であり、吃水27.5 ft 2.8万G.T.の船ができ、近代的機械設備の整った埠頭が輸入品のほとんどを扱っている。

6.2 Arab Maritime Transport Academy

(1) 経緯と計画(資料1 Project document参照)

(a) AMTA成立の背景とその概要

アラブ諸国の経済は、石油等原材料の輸出と資本財、工業製品の輸入から成立しており、海上輸送はこれら諸国経済の重要なファクタである。従って港湾、海運の整備拡充はアラブ地域全体の経済の自立発展を促進するため重要な意義を有するものであり、これに伴う雇用の増大と多様化に対処するため熟練者の養成は焦眉の急を要するものがある。

アラブ諸国はアラビア海から大西洋に至る12,000Kmに及ぶ海岸線を有した1億人の人口をもち、世界貿易上にも重要な地位を占め近年、経済の成長、生活水準の向上がめざましく経済的離陸段階に近づきつつある。そのほか、スエズ運河再開、自由地帯確立のあかつきには地中海と紅海の世界活動も重要な意義をもつことになる。

このような情勢においてエジプトはじめアラブ諸国は、各国ともまた各国共同で船隊の拡充を図っており港湾の建設、近代化、拡張が急速に行われつつある。

しかし、港湾の運営、海運の経営などのための人材及び船舶運航のための技術者が、非常に不足している現状から、これらの人材を養成する機関を設立することが急務となった。

AMTAの設立の計画は、1970年1月カイロで開催されたアラブリーグの第12回運輸通信会議において万場一致で決議され、代表としてエジプトはUNDPに技術及び財政上の援助の要請を行い、1972年1月AMTA設立計画がUNDPに承認された。

当初の参加国はエジプト、イラク、リビア、シリア、スダンの5ヶ国であったが1974年8月現在では、バハレーン、ヨルダン、クウェート、オマール、カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、北イエメン、南イエメン、パレスチナを加え15ヶ国となっている。

AMTAは一つの自治体であり、このため(UNDP援助期間中)下記メンバーにより構成する自らのBoard of Administratorsがある。

- 各参加国の代表者
- アラブリーグの代表者
- エジプト海運省の代表者
- UNDPカイロ事務所の代表者
- Inter-Governmental Maritime Consultative Organization (IMCO)プロジェクトマネージャ

○ 総 長

この会議はこの計画の目的の遂行、政策、管理、財政等すべての事項を処理し少くとも年1回は開催される。

また教育訓練等に関するこの会議の決定は UNDP、IMCO United Nations Conference On Trade and Development (UNCTAD) には束縛しない。

エジプトはホスト国として必要な国内の施設を提供し、AMTAは Co-operating Agency となり、アレキサンドリア東方25 Kmの地に面積58万 m²をもって建設され、交通電気水道の便もすでに整っており、海岸も海上訓練に適している。

AMTAの汎アラブ的性格を維持するため、アラブリーグ理事会により憲章が用意され、承認されるであろう。

この憲章はプロジェクトドキュメントと同様かつ補完的なものでAMTAの運営を統制するものであり、またアラブリーグとAMTAの Board of Administrators との関係、AMTAの予算、財政、運営管理などに言及する。

海運産業界の技術的發展に関する研究調査はアラブ各国とも必要であるが、これをより有効に行うため各国からの研究者が参加する集中的調整的な研究機関を設立する。

UNDP援助終了後はアラブリーグ憲章のもと、自治アラブ特別機関としての Board of Administrators の直接統制によりAMTAは汎アラブAMTAとして存続する。

(b) 目 的

長期的目的：この計画の究極的目的は下記の諸点について援助し、参加各国の海運を強化発展させることである。

- 正常な経済構造の樹立。
- 商船隊の運航、拡張等の評価能力の付与。
- 海洋乗務員、海運関係陸上要員の養成。

短期的目的：

- 関係アラブ諸国の要求する総合的諸訓練計画の作成。
- AMTAの諸訓練施設の確立と訓練計画の実施。
- 初級船舶職員の養成、昇進試験準備、普通船員の訓練、海運関係陸上要員の訓練。
- 自国教育要員の養成。
- AMTA図書館の設立。
- 参加各国の商船隊、港湾の整備拡張計画の援助。

(c) 作業計画

AMTAは海洋乗務員及び海運関係陸上要員養成のため、1人の統率者のもとで1個所において教育訓練が行われ、次の各コースがある。

- Cadet College…………… 初級船舶職員候補生訓練コース
- Calloge of Nautical Studies…………… 上級船舶職員養成コース
- School of Specialist Seamen…………… 普通船員訓練コース
- College of Maritime Studies…………… 海運関係陸上要員、管理者、監督者等養成コース
- 管理部門

機関科の学生は必要に応じて、アレキサンドリア大学工学部やアレキサンドリア造船所等の施設を利用できる。

この計画は、UNDPの援助により、IMCOがExecuting Agency、UNCTADがAssociatell Agencyして1972年に発足し、1977年までの5ケ年にわたり実施される。財政措置として当初は、次のとおりであった。

UNDP (訓練機材、専門家派遣、研修生受入) …………… 2,300,000 \$
 エジプト (土地、建物及びUNDPの供与しない訓練機材) …………… 3,341,500 L.E.
 参加アラブ諸国 …………… 2,087,000 L.E.

その後、膨張して現在は次のとおりとなった。

UNOP…………… 2,604,900 \$
 参加アラブ諸国及びエジプト…………… 8,253,628 L.E.

計画実行のタイムスケジュール、資金、人員、機材等のUNDP及び関係アラブ政府のInputsは第1表に示すとおりで、その大筋は、

UNDP Inputs

Experts	660 M/M	1,247,000 \$
Fellowships	258 M/M	87,400 \$
Equipment		1,210,000 \$
雑		65,000 \$
計		2,609,400 \$

Governments Inputs

Local staff		1,252,588 L.E.
Fellowships		90,000 L.E.
Equipment		6,444,000 L.E.
雑		467,040 L.E.
計		8,253,628 L.E.

となっている。

Table 1.

WORK PLAN - BAR CHART

(Figures under the year column indicate the proposed month of commencement and completion)

	<u>1972</u>	<u>1973</u>	<u>1974</u>	<u>1975</u>	<u>1976</u>	<u>1977</u>
1. <u>Preparatory activities</u>						
Pre-construction activities, preparation of plans, constructional drawings, temporary premises, secretarial staff, transport.						XXXXXXXXXXXXX
2. <u>Physical facilities at location</u>						
Buildings, Jetty, Power and Water Supply.						12XXXXXXXXXXXXXXXXX12
3. <u>Assignment of international staff</u>						
Project Manager						3XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX2
Chief of Marine Engineering Studies						2XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX2
Chief Lecturer (Nautical)						7XXXXXXXXXXXXXXXXXX6
Lecturer (Nautical)						1XXXXXXXXXXXXXXXXX12
Lecturer (Marine Engineering)						7XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX2
Radiocommunication Instructor						
Radar & Radar Simulator Instructor						
Tanker Safety, Damage control and Fire Fighting Instructor						7XXXXX6
Specialised Seamen Instructor						7XXXXX12
Electronic Engineer						11XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX10
Lecturer (Ports)						2XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX1
Consultants						As requiredX
4. <u>Assignment of national staff</u>						
A. Counterparts and instructional staff;						
Counterpart Manager/Director General						3XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
Deputy Director General, Planning and Education						9XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
<u>Cadet College</u>						
Principal						5XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
Chief Instructor						1XXXXXXXXXXXXX
Senior Instructor (Nautical)						7XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
Senior Instructor (Mar. Eng.)						1XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

Senior Instructor (Radio Com.)	1xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Senior Instructor (Academic)	9xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Senior Instructor (Comb.-Prof.)	1xxxxxx
Instructors (Nautical)	1xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (Eng.)	1xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (Acad.)	9xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (Comb.-Prof.)	1xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (Radio Com.)	1xxxxxxxxxxxxx
Instructors (P.T.)	7xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (English Lang.)	11xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Officers I/C Practical Training	9xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

College of Nautical Studies

Chief of Navigation Seamanship	10xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Chief of Marine Engineering	8xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Senior Instructors (Electronic Nav.)	9xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (Nautical)	9xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (Mar. Eng.)	9xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (Electronic Nav.)	1xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (Radar, Radar Stm.)	1xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (Radio Com.)	7xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructors (Electro-Tech.)	9xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

College of Maritime Studies

Principal	4xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Chief Instructor (Shipping)	1xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Chief Instructor (Ports)	4xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Chief Instructor (Economic, Management)	1xxxxxxxxxxxxx
Chief Instructor (Law)	1xxxxxxxxxxxxx
Instructors (Law, Shipping, Ports, Management)	8xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

School of Specialised Seamen

Principal	5xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructor (Boatswain)	11xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructor (Motorman)	4xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructor (Electrical)	11xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructor (Nautical)	11xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
Instructor (Mar. Eng.)	9xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

Research and Consultation Centre

Deputy Director General, Research
and Consultation

8xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

Senior Expert

4xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

Assistant Researcher

4xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

Expert

2xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

Assistant Researcher

3xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

B. Para-Professional Staff

Xxxxxxxx as required xxxxxxxx

C. Administrative etc. Staff

Xxxxxxxx as required xxxxxxxx

5. Training Schedule

Fellowships:

(a) Extra Master's Studies

(i)

9xxxxxxxxxx8

(ii)

9xxxxxxxxxx8

(iii)

9xxxxxxxxxx8

(b) Extra First Class Engineer's
Studies

(i)

9xxxxxxxxxx8

(ii)

9xxxxxxxxxx8

(iii)

9xxxxxxxxxx8

(c) Shipping Economics

(i)

9xxxxx8

(ii)

9xxxxx8

(d) Shipping Management

9xxxxx8

(e) Marine Insurance

X

(f) Stevedoring-Cargo Handling

X

(g) Port Administration

9xxxxx8

(h) Port Planning

9xxxxx8

(i) Port Operation

9xxxxx8

(j) Accountancy

X

(k) Maritime Law (Commercial)

9xxxxx8

(l) Maritime Technology

X

(m) Maritime Training & Education

X

(n) Specialised Seamen Training

Techniques

X

(o) Radar Maintenance & Operation

X

6. Delivery of major items of
equipment (UNDP)

(a) Operation vehicles

XxxxxxX

(b) Seamanship and Navigation Equipment	1xxxxxxxxxxxx12
(c) Models and Simulators	1xxxxxxxxxxxxxxxxx8
(d) Engineering Workshop Equipment	X
(e) Laboratory Equipment	X
(f) Radiocommunication Equipment	X
(g) Radar Equipment for Radar Training	X
(h) Radar	X
(i) Audio-visual and other training aids including language laboratory	Xxxxxxxxxxxxx
(j) Reference books, Text books Periodicals	Xxxxxxxxx as required xxxxxxxX
(k) Duplicating machines, Photo copying machines	X
7. <u>Availability of Government supplies and equipment</u>	
(a) Office quipment and stationery	Xxxxxx continuing basis xxxxxxX
(b) Consumable training stores	Xxxx continuing basisxxxX
(c) Lighthouse Tender "Aidar III"	Xxx as required xxX
(d) Training Schooner	X
(e) Launch for radar training	X
(f) Lifeboats and other sailing boats	X
(g) Buses for transport of students (4)	X
(h) Furniture and fittings	Xxxxxxxxx as required xxxxxxxX
(i) Kitchen Equipment for Cadet Hostel	X
(j) Power House and Laundry Equipment	X
8. <u>Provision of Miscellaneous items (UNDF)</u> Esseantial items of office equipment and stationery not available locally	Xxxxxxxxx as required xxxxxxxX

PROJECT NO : REM/71/286

TITLE: ARAB MARITIME TRANSPORT ACADEMY, ALEXANDRIA

IV. PROJECT BUDGET COVERING UNDP CONTRIBUTION
(in U.S. Dollars)

	1972		1973		1974		1975		1976		1977	
	m/m	\$	m/m	\$	m/m	\$	m/m	\$	m/m	\$	m/m	\$
10. PROJECT PERSONNEL COMPONENT												
11. Experts:												
01 Project Manager	60	150,000	10	25,000	12	30,000	12	30,000	12	30,000	12	30,000
02 Chief of Marine Eng. Studies	37	92,500	-	-	-	-	11	27,500	12	30,000	12	30,000
03 Chief Lecturer (Nautical)	36	90,000	-	-	6	15,000	12	30,000	12	30,000	6	15,000
04 Lecturer (Nautical)	36	90,000	-	-	-	-	12	30,000	12	30,000	12	30,000
05 Lecturer (Marine Engineering)	32	80,000	-	-	-	-	6	15,000	12	30,000	12	30,000
06 Radiocommunication Instructor	18	45,000	-	-	-	-	-	-	4	10,000	12	30,000
07 Radar & Radar Simulator Instructor	18	45,000	-	-	-	-	6	15,000	12	30,000	-	-
08 Tanker Safety, Damage Control & Fire Fighting Instructor	12	30,000	-	-	-	-	-	-	-	-	10	25,000
09 Specialised Seamen Instructor	18	45,000	-	-	-	-	6	15,000	12	30,000	-	-
10 Lecturer (Ports)	36	90,000	-	-	-	-	11	27,500	12	30,000	12	30,000
11 Lecturer (Shipping)	36	90,000	-	-	2	5,000	12	30,000	12	30,000	10	25,000
12 Electronic Engineer	12	30,000	-	-	-	-	-	-	9	22,500	3	7,500
13 Consultant (Radar Simulator)	5	12,500	-	-	-	-	1	2,500	4	10,000	-	-
14 Consultants (Marine Engineering)	6	15,000	-	-	-	-	3	7,500	-	-	3	7,500
15 Consultants (Radio-communication)	4	10,000	-	-	-	-	1	2,500	1	2,500	2	5,000
16 Consultant (Health Regulations)	3	7,500	-	-	-	-	-	-	-	-	3	7,500
17 Consultants (Oil Pollution)	9	22,500	-	-	-	-	-	-	5	12,500	4	10,000
18 Consultants (Maritime)	102	225,000	-	-	-	-	12	30,000	45	112,500	45	112,500
13. Administrative Support Personnel	180	38,000	-	-	28	6,600	48	9,400	48	9,900	48	10,300
16.12. Mission Costs (IMCO HQ Staff)		9,000					3,000	3,000			3,000	
19. COMPONENT TOTAL	660	1,247,000	10	25,000	48	56,600	153	274,900	224	452,900	206	408,000
											19	29,300

	TOTAL	1972	1975	1974	1975	1976	1977
	m/m \$	m/m \$	m/m \$	m/m \$	m/m \$	m/m \$	m/m \$
30. <u>TRAINING COMPONENT</u>							
31. <u>Fellowships:</u>							
01 Extra Master's Studies	72 23,100	-	8 3,400	28 8,900	28 8,400	8 2,400	-
02 Extra First Class Engr. Studies	72 23,000	-	8 3,400	28 8,900	28 8,400	8 2,400	-
03 Shipping Economics	24 8,200	-	-	15 5,500	9 2,700	-	-
04 Shipping Management	12 4,100	-	-	6 2,300	6 1,800	-	-
05 Marine Insurance	6 2,300	-	-	6 2,300	-	-	-
06 Stevedoring-Cargo Handling	6 2,300	-	-	6 2,300	-	-	-
07 Port Administration	12 4,100	-	-	6 2,300	6 1,800	-	-
08 Port Planning	12 4,100	-	-	6 2,300	6 1,800	-	-
09 Port Operation	12 4,100	-	-	6 2,300	6 1,800	-	-
10 Accountancy	6 2,300	-	-	6 2,300	-	-	-
11 Maritime Law (Commercial)	12 4,100	-	-	6 2,300	8 1,800	-	-
12 Maritime Technology	3 1,400	-	-	3 1,400	-	-	-
13 Maritime Training and Education	3 1,400	-	-	3 1,400	-	-	-
14 Specialised Seaman Training	3 1,400	-	-	3 1,400	-	-	-
15 Radar Maintenance and Operation	3 1,400	-	-	3 1,400	-	-	-
39. COMPONENT TOTAL	258 87,400	-	16 6,800	131 47,300	95 28,500	16 4,800	-

1
2
1

	1972	1973	1974	1975	1976	1977
TOTAL	\$	\$	\$	\$	\$	\$
<u>40. EQUIPMENT COMPONENT</u>						
41. Expendable Equipment	-	2,000	3,000	3,000	2,000	-
42. Non-Expendable Equipment	600	72,000	100,000	500,000	527,400	-
49. COMPONENT TOTAL	600	74,000	103,000	503,000	529,400	-
<u>50. MISCELLANEOUS COMPONENT</u>						
51. Maintenance, Operation and Insurance of Vehicles	-	3,200	6,000	7,000	10,000	2,300
52. Reporting Cost	-	-	1,000	1,000	1,000	2,000
53. Sundry	500	940	4,000	4,000	4,000	1,560
54. Direct Cost	-	640	3,000	3,000	3,000	2,360
59. COMPONENT TOTAL	500	4,780	14,000	15,000	18,000	8,220
99. GRAND TOTAL	26,100	142,180	439,200	999,400	960,500	31,520

Project Budget Covering Governments
Counterpart Contribution in Kind
In Local Currency

	Total		1972		1973		1974		1975		1976		1977	
	m/m	L.E.	m/m	L.E.	m/m	L.E.	m/m	L.E.	m/m	L.E.	m/m	L.E.	m/m	L.E.
Director General and Planning and Education	1,774	24	147,911	5,297	109	12,222	211	19,860	372	31,764	528	38,784	528	39,384
Cadet College	1,882	0	259,017	0	111	13,986	312	42,393	468	64,146	504	69,246	504	69,246
College of Nautical Studies	733	0	100,617	0	61	8,535	144	20,346	168	22,872	180	24,432	180	24,432
College of Maritime Transport	661	15	93,520	1,145	53	7,196	111	15,261	156	22,266	168	23,826	168	23,826
School of Specialist Seamen	1,337	16	108,876	2,210	55	5,302	234	17,886	288	21,954	372	30,906	372	30,906
Research and Consultation Center	327	0	43,755	0	0	0	51	7,275	84	11,280	96	12,600	96	12,600
Administrative Personal	36	0	8,820	0	0	0	0	0	12	2,940	12	2,940	12	2,940
Finance Supply Department	1,125	8	83,958	2,728	55	6,326	126	11,990	252	19,302	312	21,906	312	21,906
Personal and Administrative Department	2,225	4	123,542	192	133	8,750	324	19,680	420	24,380	671	35,280	672	35,280
Establishment Department	4,249	6	115,135	1,374	91	5,913	312	11,748	648	19,556	1,584	42,600	1,584	42,212
Medical Section	264	0	19,631	0	0	0	12	1,848	60	4,776	96	6,504	96	6,504
Reserve			145,605	3,408		15,979		27,153		24,863		37,101		37,101
Total	1,252,588	16,066	16,066	82,649	189,000	270,079	347,397	347,397	270,079	347,397	347,397	2,229,397	2,229,397	
Training Component	90,000	0		10,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	
Equipment Component	6,444,000	534,664		249,338	785,000	1,550,000	1,570,000	1,755,000	1,550,000	1,570,000	1,755,000	1,755,000	1,755,000	
Miscellaneous Component	467,040	24,522		57,075	81,200	90,243	107,000	107,000	90,243	107,000	107,000	107,000	107,000	
Grand Total	8,253,628	575,250	399,062	1,075,200	1,930,322	2,044,397	2,229,397	2,229,397	1,930,322	2,044,397	2,229,397	2,229,397	2,229,397	

(d) 組織

総括的責任体制

参加各国政府、UNDP、IMCOはこの計画達成に関し共同責任を持つ。

参加各国政府はこの計画に対し、人材、教育施設建物その他必要な役務等を提供しこの計画遂行の直接責任をもつCo-operating Agencyとして、Arab Maritime Transport Academyを指命した。

UNDPは参加各国を援助し、IMCOを通じて専門家の派遣、教育機材その他の役務を提供する。

各国政府の受持範囲

参加各国はこの計画の予算に副って予算措置をとり、また情勢の変化により予算人員等について若干の調整を行う。各国はその国内における諸関税、機材の運搬、保管等に関する課料を支払い、AMTAは機材の保管、据付、整備、保険等に責任を持つ。

各国は計画遂行に必要な諸情報等を提供する。またAMTAはこの計画の関係者に適当な住居を適当な賃料において斡旋する等の便宜を供与する。AMTAのBoard AdministratorsはIMCOの同意を得て、この計画の遂行責任者たるAMTAの総長を任命する。

UNDPとIMCOの受持範囲

UNDPはIMCOを通じて援助を実施し、計画の予算に副って予算措置をとる。

IMCOは参加各国の同意を得て、Project Managerを決定し、Project ManagerはIMCO関係の専門家や職員を監督、UNDP供与の機材の運営管理に責任をもつ。

Fellowshipに関してもIMCOが管理する。UNDP供与の諸材料機材は計画遂行のためのみに使用されUNDPとIMCOのマークがつけられる。またこれらの機材はこの計画完了時に三者協議の上、必要があればAMTAの所有となる。

便宜供与

UNDP・IMCO等国連機関の職員は、UNDPとホスト政府エジプトとの協定によって、規定の便宜供与をうける。

(2) AMTAの現状

(a) 組織と陣容

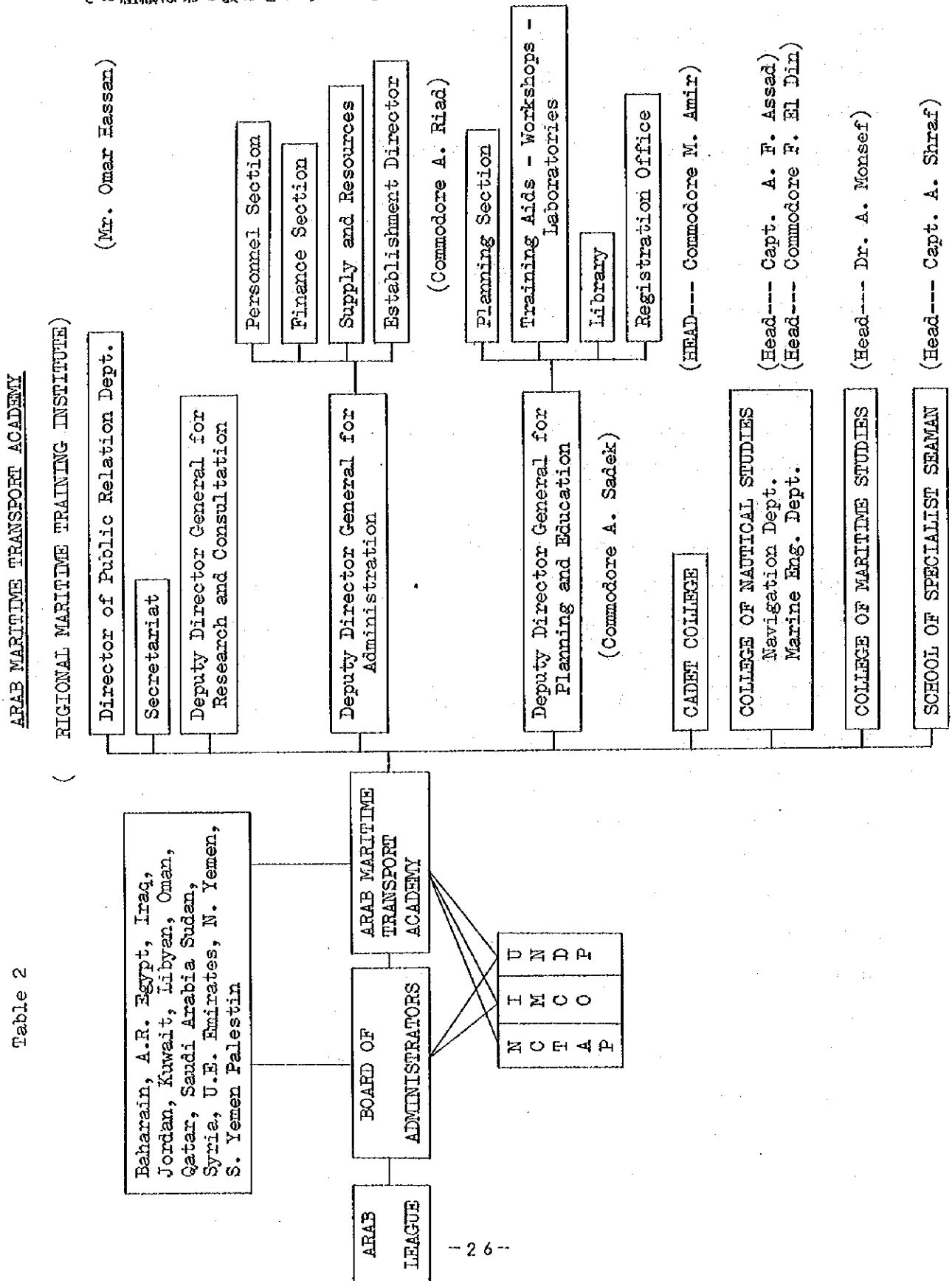
UNDPはAMTAの設立とその目的遂行のため実施機関を通じて、財政上の援助を行う。

IMCOはExecuting Agencyとなりこの計画実施に関し責任をもち、教育訓練実施及びアラブ側教育スタッフを援助のために必要なエキスパートを募集補給し、必要な教育機材を提供する。UNCTADはAssociating Agencyとなり、港湾海運に関する管理経営等の研究教育の分野でIMCOを援助する。

AMTAの運営は前出のBoard of Administratorsの決定により行われ、またAMTAは

Table 2

アラブリーグの一機関ではあるがその結びつきはうすく、一つの自治体であり予算その他について、リーグに報告する義務を有するだけである。
その組織は第2表のとおりである。



AMTAの首脳陣容は次のとおりである。

- | | | |
|------|---------------------------|-----------------------------------------|
| 1 - | Commodore G.A.Moukhtar. | Director General. |
| 2 - | Capt.M.Zakaulah. | Project Manager,UNDP/IMCO/UNCTAD |
| 3 - | Commodore A.Sadek. | Deputy Director General for Education |
| 4 - | Commodore M.El Amir. | Head of Cadet College. |
| 5 - | Commodore F. Nasr El Din. | Head of Engineering Studies Department |
| 6 - | Capt.A.F.Assad. | Head of Nautical Studies Department |
| 7 - | Dr.A.Abdol Monsef. | Head of Maritime Transport College. |
| 8 - | Capt.A.Sharaf. | Head of Specialised Seamen School. |
| 9 - | Commodore A.Riad. | Establishment Director. |
| 10 - | Mr.Omar El Hassan. | Director of Public Relation Department. |

この首脳陣は Director General を中心として一致協力し各人非常な熱意と努力を持って、事の創世期にありがちな種々の困難を克服しつつAMTAの運営と確立に邁進しているものと推察された。

(b) 財政的諸問題

財政的措置については前述のとおり当初はUNDP約230万\$、エジプト約3.34万L.E.他の参加国約2.09 L.E.の剰出金であったが、現在ではUNDP約260万\$、エジプトおよび参加国約825万L.E.に増額されている。

しかし、建物の建設はエジプトが負担し当初約200万L.E.の予算としたが規模が大きすぎた事、物価の上昇等で現実には約600万L.E.を必要とするようになったため、進捗が非常に遅れている。

このためエジプト政府は今年8月末までに新たに予算措置を講じ、またサウジアラビア、クウェート等参加国に資金援助の要請するなど建物の建設に全力をあげている。

このような財政的困難の打開の一つの方策として日本に対し技術・財政上の援助を依頼して来たのである。

(c) 建物および教育機材

AMTAの建物、施設は各教育機関がアレキサンドリアの東方アブキールに集中して建設する計画で、58万 m^2 の広大な敷地に国際的建築家 Ramji Omar 氏の設計による斬新な外観、効果的構造、配置による一大AMTAが建設中で全貌は前出のとおりである。

現在の進捗程度は約40%であり、酷暑の中を工事が進められている。

電力は動力AC 50 Hz・380V、照明AC 50 Hz・220Vで、プラグは特殊なものである。

また給排水設備も充分考慮の上計画され問題はないと思われる。

現在各教育機関はアレキサンドリア市内の各所の仮校舎に散在して、Cadet Collegeは海軍の建物、College of Nautical Studies, College of Maritime Studies等は市内の建物の一部、School of Specialist Seamen はアレキサンドリア西港内の建物を借用して活動を行っており、教育機材、施設は極度に不足している様子ながら各校舎は十分な数の教室、広さを有しAMTAの熱力と実力の一端を知ることが出来る。

教育機材は建物の建設が遅れているためUNDPで発注を一部控えていることもあって、各教育機関とも不足し、現在は中古品やスクラップ同然のものを集めて充当している状態である。UNDPは第1表に示すように120万\$の教育機材を供与する予定であるが、これはAMTAに対し一括供与しAMTAはこれを受領後、各教育機関に分配する方式である。

教育機材のうち掛図、スライド、オーバーヘッドプロジェクタ、カットモデル等も未だ非常に不足しているように見うけられた。UNDPからの供与機材のうち受領済分、未納分のものについては第3表、第4表に示すとおりである。

教育機材全般について云えばAMTAは昨年からの教育活動を開始したばかりで、学生数もまだ少ない現在でも不足の状況であり、今後教育活動が軌道に乗り学生数が年々増加することを考慮すると、教育機材の補給充実を急ぐことが肝要である。なお、現在はアレキサンドリア大学、エジプト海軍等の機材を一部使用している。

海上実習用として、エジプト海軍の灯台補給船“AIDA III”(約7,000トン)、実習艇“ビーナス”号、ヨット“イブマギット”号の3隻を有している。

“AIDA III”は非常に老令船であり、“ビーナス”号は中古船を購入し改造したもので総トン数54トン、レーダ実習用として使用予定であるが、未だレーダは搭載されていない、ヨットは大型82トンであり、後2者はアレキサンドリア東港に係留されている。

(d) 教育要員

各教育機関の長、教授、教育補助員および研修員(counter parts)等の配置任期は、UNDP側派遣専門家とアラブ側要員にわけて、第1表および資料1のwork planに詳細に明示されている。現在はUNDPからの専門家は数名派遣され主としてCollege of Nautical StudiesおよびCollege of Maritime Studiesで活躍している。また今までには短期専門家として数名が派遣された実績があり。派遣専門家の国籍は英国、カナダ、ユーゴ、ノルウェー、インド、パキスタン等極めて多彩である。

Cadet Collegeは現在アレキサンドリア大学、エジプト海軍等から教授の派遣を得て、すべてアラブ側教育要員で充足しているが、学生数の増加とともにUNDPからの専門家の派遣が必要となるであろう。

School of Specialist Seamanは現在アラブ側教育要員で教育を行っている。

なおUNDPからの専門家派遣計画は前出のとおり、全援助期間5年間にわたり18名660

Table 3

EQUIPMENTS REC. FROM U.N.

No	ITEM	Received	on order	Purchase order		Rem.
				No.	date	
1	27" Typewriter Model 24D	1		TCD34/72	16/10/72	
	15" " " 24D	2				
	20" " " 24D	1				
2	Spares for Testetner 466, inks, stencil, Pens			TCD32/72	16/10/72	
3	Gestetner Printer Model C.S.390	1		TCD33/72	16/10/72	
	" Duplicator	1				
4	10" Slide Rules	12		TCD119/73	20/7/73	
5	16" -45° Set Square	48		TCD31/72	6/10/72	
	18" -60° " "	48				
	9" ϕ 360° Protractor	48				
6	Charts, tables, lists & Catalogues			TCD23/72	26/9/1972	
7	A/C Automatic Tracking loran receiver with spare parts and accessories	1		TCD/04/73	16/5/1973	
8	Anschuts gyro Compass + gyroscope + connection + dist box + spares + log	1		TCD/06/73	24/5/73	
	Bulkhead Repeater Compass	2				
	Free gyroscope teaching unit	1				
9	Plath Visual Radio D.F.	1		TCD128/73	3/0/73	
	Crossed-loop, D. Antenna	1				
	Spare Parts and Diagrams	1				
10	Deca Navigator Demonstration model	1		TCD113/73	13/6/73	
	Peugeot 504	1		TCD30/72	6/10/1973	
11	V.W. Microbus			TCD103/73	16/4/73	
12	Wankel engine model	1		TCD120/73	20/7/73	
	4-St D.E. Model	1				
	" P.E. "	1				
	2 " "	1				
	Diesel Injector model	1				
	Ignition system	1				
	Gyroscope Apparatus	1				
	Stability of a floating body	2				

No	ITEM	Received	on order	Purchase order		Rem
				No.	date	
13	Plath Simulator for Plath Visual Direction finder	1		TCD129/73	3/10/73	
14	Motorised orbiter Planetarium	1		TCD130/73	16/10/73	
	Solar System Simulator	1				
	Transparent Celestial Globe	1				
	Star Chart	1+10+10				
	Luminous star finder	10				
	Student Astronomy Explorer	1				
	Solar system Dials	10				
15	Gestetner Model 466	2		TCD145/73	6/12/73	
	Stencils & Spares	1				
16	Carzeiss Micrometer Sextant	10		TCD26/74	25/3/74	
17	Wooden Models of Buoys	4 Sets		TCD32/74	18/4/74	

Table 4

EQUIPMENT ORD. & NOT REC. FROM U. N.

No	ITEM	Received	on order	Purchase order		Rem.
				No.	date	
1	Lodestar-Automatic D.F. with loopaerial with Simulator System & optional items	1		TCD105/73	16/5/1973	
2	-Cherub lll log	1		TCD148/73	17/12/73	
	-Commodore Electric log	1				
	-K. H. Merchant Pattern hand Sounding H/C					
	-Deviastope, Bealls Patent	1				
	-Max-Min Thermometers	6				
	-Cumberland rain gauge	2				
	-Complete Sets of 40 International Code & Signal flags	2				
	-Copies "Inter Code of Sign.	6				
	-Set Ships Day Signals "Not under Com.- Towing vessels-under water-Fishing-	1				
	-Life Buoys	12				
	-Set lights, life buoys	1				
	-Life Jackets	100				
	-Complete life boat equipment	1				
	-Smoke app.	2				
	-Airmaster air Breathing app.	2				
	-Insp. lamp	2				
	-Fireman's Axe.	2				
	-Beafort life-rafts (Type R)	1				
	-RFD inflatable life raft	1				
	-Dunlof Seafaver inflatable Life-raft	1				
	-Set Reply Mech. engine Telegraphs.	1				
	-Set chadburn electrically operated Bridge to engine room Telegraph	1				
3	Arma brown Gyro Compass for operation with Marconiradar and Azimuth Stabilisation for true motion	1		TCD4/74	8/12/74	
4	Installation Mat. Master/Aerial unit Master/Slave Slave/Slave			TCD5/74	8/2/74	

No	ITEM	Received	on order	Purchase order		Rem
				No.	date	
4	Radiolocator 12" Solid State 12" Display Radar	1				
	Radiolocator 12" Display unit as slave Displays	1				
	and Spares " Magnetron, Semi-Conductors	1				
5	Sony Language Lab for 30 Students	1		TCD15/74	4/3/74	
6	Aldis MK.X Long range Signaling lamp	4		TCD17/74	12/3/74	
	Wooden Carrying Case-Redfront-Greenfront-bulbs-mainstrains.	4 each				
	-Heliograph Mirrors	4				
	-Sestrel Micrometer Sextants	10				
	-Cestrel Pelorus	2				
	-7" plain brass Dividers	60				
	-4" Chart Magnifiers	4				
	-6" Dial Marine aneroid Barometer	2				
7	- hydraulics Bench	1		TCD23/74	15/3/74	
	- discharge thro' orifice	1				
	- flow thro' venturi meter	1				
	- Discharge over a notch	1				
	- friction loss along a pipe	1				
	- impact of a jet	1				
8	-Ebbco plastic Training Sextants	6		TCD24/74	20/3/74	
	-18" Paraller rules	60				
9	Overhead Protectors	4		TCD27/74	28/3/74	
	Protector Screens	6				
10	Fire Extinguishers Water-CO ₂ -Foam-Dry Powder, ABC Powders			TCD40/74	9/5/74	
11	Diesel Gen. Set with Spares-Silencer-Start stop---	1		TCD43/74	4/6/74	
12	Tanker Shipboard Piping			TCD42/74	4/6/74	
13	Slide Sets-electronics	15		TCD45/74	20/6/74	
	" Semi Conductor Physics, Triplallography & electronics	21				

No	ITEM	Received	on order	Purchase order		Rem
				No.	date	
14	Electric More Masthead Signaling lamp	3		TCD47/74	20/6/74	
	Set Navigation lamps, electric	1				
	" " " oil	1				
	716 leads for hand lead line	4				
	Stop watch 1/5 Sec	2				
	Sestreline standered Compass	1				
	Azimuth Mirrors	2				
	X-Y station Pointers	24				
	Pairs 7" Pencil Compasses	60				
	Pairs Marine Binoculars 7x50	2				
	Mason Hygrometer	6				
	Wind Speed & Direction Instrument	2				
	-Whirling Psychrometer	2				
	-Hydrometer	4				
-Marine Barograph	2					
15	Supax 8m/m, filmloops (10) (5) (10) optics, Sound, Simple mechanics Series	1 set		TCD48/74	20/6/74	
16	Slides-Meteorology	1 set		TCD49/74	20/6/74	
	NE.P. fitting (Set)	1				
	lathework (Set)	1				
	Slide Sets-electrical Technology	15				
17	Kelvin-hughes Echosounder Recorder + Powerunit	1		TCD46/74	20/6/74	
	Echo Simulator	1				
	Auxiliary Programme Unit	1				
18	Set of 26 Transparencies-Machine & engineering drafting	1		TCD50/74	20/6/74	
	Set of 77 Transparencies Precision Measurement	1				
19	D.C. Supply for physics, electronics, and general work				3/1/74	
	-Single generator					
	-Variable Resistor 20W					
	-Stabilized Power Supply Shopper					

No	ITEM	Received	on order	Purchase order		Rem
				No.	date	
19	-RC-Coupled Transistor Amplifier -high frequency amplifier -Audio Amplifier -Pre. amplifier -IC-Oscillator with a tune diode -Crystal Oscillator -Blocking Oscillator -Bi-Stable Transistor Flip-flop. -Hiller Sweep -Set of fundamental building Blocks -Forlogic Circuits -Ring Modulator -Amplitude Modulator -Modulator 2FM -Demodulator 2FM - " 1FM -Radio Transmitter. AM/FM -Line Fault Simulator -Dummy Antenna -Transducer (Control of DC & CA loads) O Analogue systems-process Simulator -DC Servo-System -Thyristor Power Control -Oplo-electronic applications Thermodynamics -Combustion bench for diesel oil -Refrigration Benth					

人・月となっている。

(g) 学費等

学生の学費等については参加各国からの学生の授業料は無料であり、参加各国はその国派遣の Cadet College, School of Specialist Seamen の学生、生徒に対してポケットマネー、制服代、食および交通費を負担し、College of Nautical Studies, College of Maritime Studies の学生に対してはその在学中アレキサンドリアで生活できる程度の費用および交通費を負担することになっている。

AMTA の建物完成の暁は、Cadet College, School of Specialist Seamen の学生生徒は全員敷地内の寄宿舎に収容され、その他のコースの学生は主としてアレキサンドリア市内の各自の下宿から通学し、希望者のみ寄宿舎にて生活することとなる。現在は Cadet College の学生のみ仮の寄宿舎で生活し、その他はすべて自宅下宿等から通学している。

また現在の各コースの学費、生活費等については充分把握していないようであり、奨学金制度も前記の事情で特にないようである。

(f) 各教育機関等の現状（資料 5、6 参照）

(i) Cadet College

この College には航海科、機関科（将来は無線通信科も）の 2 学科があり、学生に対し座学および実習の教育訓練を通じ初級船舶職員として要求される知識技能および資質を涵養する。なお将来は Diploma を発行する大学にする構想もある。

○ 入学資格および学生数

高等学校卒業以上年令 16～21 才、身体検査合格が入学条件であり、参加各国は AMTA からの割当て数に応じ学生を自国内で選考し、AMTA としては、特に入学試験はなく英語力をチェックするだけである。

フル活動に入れば学生総数は 600 名程度（航 60～80 名、機 60～80 名、無 20 名）となる予定であるが、現在は 82 名（航 52 名、機 30 名）、本年 10 月新入生予定数は 94 名（航 50 名、機 44 名）程度である。

○ 教員要員

専門科目 27 名、一般科目 14 名の定員で現在はアラブ側要員のみで充当しアレキサンドリア大学、海軍より教員の派遣をうけており、1 級教員（12 時間 1 週）3 名、2 級教員（16 時間 1 週）5 名、3 級教員（20 時間 1 週）7 名計 15 名である。

○ 教育内容

修業年限は 4 年で 3 期に分けられる。

第 1 期……… 座学 2 年、各学年 2 学期制

第 1 学年：授業 16 週・試験 1 週・海上実習（15 人乗ヨット）2 週・休暇 1 週×2 学期

第2学年：授業16週・試験2週・夏季海上実習（“AIDA III”にて灯台補給船の仕事に従事しながら）5週・休暇3週×2学期

このうち機関科は週6時間の造船所実習を含む。

第2期……乗船実習：航海科18ヶ月機関科12ヶ月、各学生は自国の船で実習を行い、この期間中600項目のチェックポイントにつき船長のサインを受け、また3ヶ月毎にレポートをCollegeに提出し教官はこれに基づき評価アドバイス等を行う。

第3期……乗船実習終了後、航海科は6ヶ月機関科は12ヶ月Collegeに戻り卒業試験の準備を行う。卒業試験を失敗したものは6ヶ月の再教育を受ける。

知識技能ばかりでなくシーマンシップ等船舶職員としての資質涵養は、講義や学校生活はじめ前出の長期短期の海上実習訓練により行われる。

このCollegeを卒業すると各国はその国の法律に基づき自国の卒業生に対し、航海科生には2等航海士の免状を、機関科生にはさらに18ヶ月assistant eng^rとして乗船勤務をした後2等機関士の免状を授与する。

(c) College of Nautical Studies

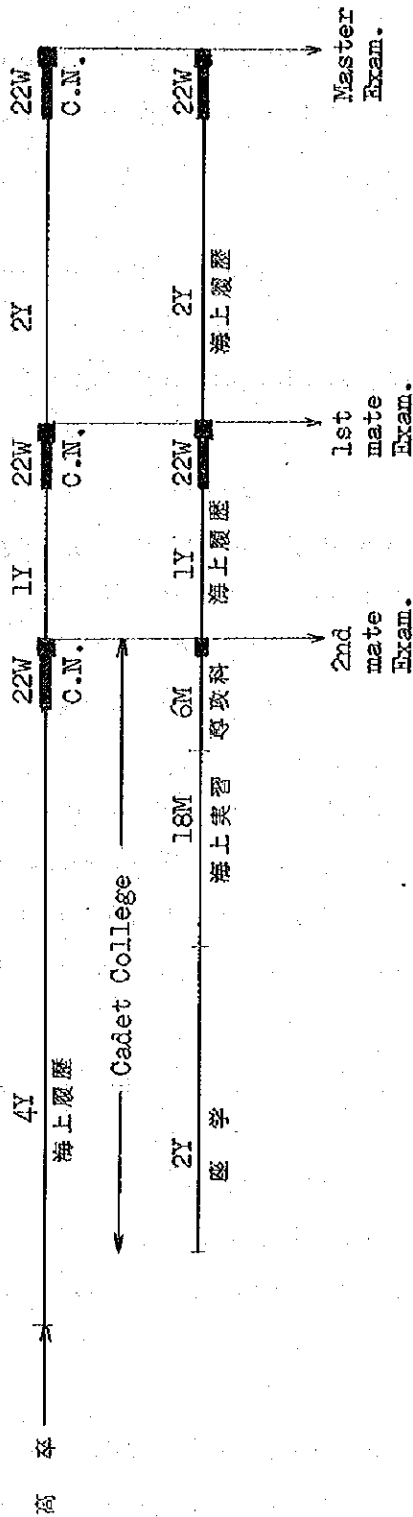
このCollegeは、海上履歴のある船舶職員に対し船長、機関長等の上級資格試験の準備を行うと同時に短期の特別コースも用意されている。また将来は無線通信士上級コースも計画されている。

○ 入学資格および学生数

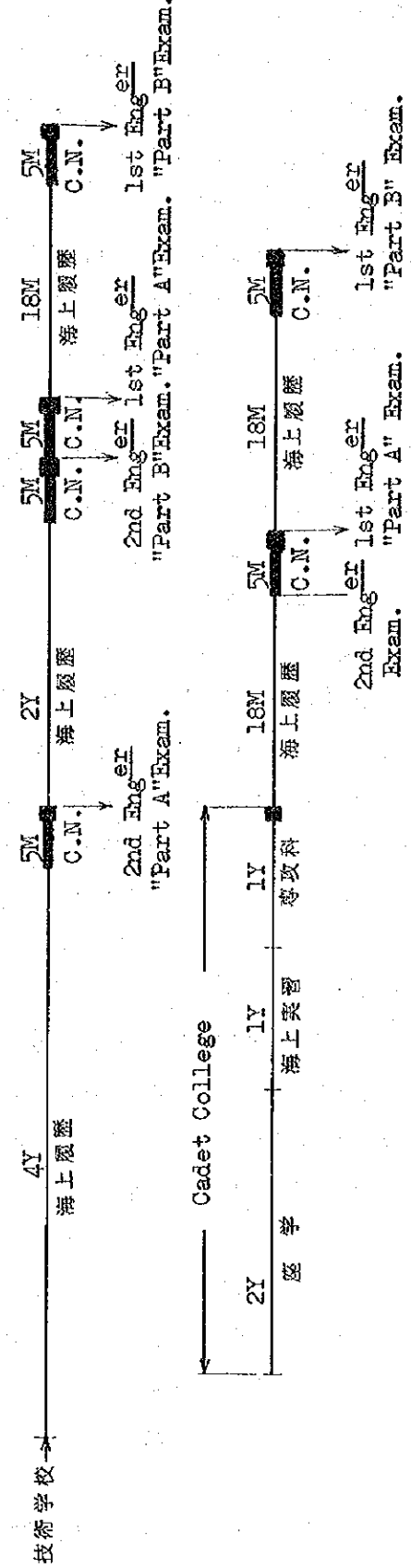
海上履歴を有する船舶職員（第5表参照）を対象とし各国の割当ては、各国の商船隊の現状を基として管理者会議で決定され5年間に1,000人以上の学生が予想され、またCadet College卒業生が入学優先権を持つ。

航機の船長・1等2等のコースは25～30名、短期各コースは50名の定員とする予定であるが、現在までの学生数は船長、1等航海士、2等航海士を合せて73年9月生22名、73年12月生33名、74年3月生41名、74年6月生63名でこのうち大部分がエジプト人である。機関科コースには本年9月20名採用することになっている。

航海士上級コース



機関士上級コース



- C.N. : Refreshing course in College of Nautical Studies
- Part A : Theoretical matter
- Part B : Practical matter

○ 教育要員

この College は航海士上級コース、機関士上級コースに分かれ各コースとも Head はアラブ側要員であるが、教授陣にはイギリス、インド等 UNDP 専門家が長期短期にわたり派遣されている。教育要員定員 13 名である。

○ 教育内容(資料 7 参照)

航海士上級コースは船長、1 等航海士、2 等航海士各コースにわかれ所要の海上履歴を必要とし、現在までは船長、1・2 等各 230、230、290 時間の授業が行われていたが、今後は各コース 22 週 630 時間の授業となり近く上級免状取得のための必修条件となる。

また短期特別コースとしては damage control, fire fighting, tank operation, LPG & LNG operation, prevention of accidents hygiene and human relations, radar simulator, radar observer などがあり、3 ヶ月～1.2 週間の授業が行われる。

機関士上級コースも各コース 5 ヶ月 600 時間の授業が行われ、教科目としては数学、熱力学、機関学、製図、英語、科学がある。

短期特別コースとしては、maintenance, auto-control, medium speed engine, propulsion, vibration などがあり 1 ヶ月～2 週間の授業が行われる。

このコース終了後現在までは国家試験(1 週間～2 週間口述および実技を含む)を受験したが、本年 9 月からは本校の試験結果に基づき海運省から資格免状を発行の予定である。

また授業料として参加国からの学生は無料であるがその他の者は、船長、1・2 等コース各 50、45、40 L.E. を徴収する。

(4) College of Maritime Studies

この College は船長・機関長の経歴のあるものおよび既に海運事業に経験ある主として大学卒業者に対し、海運経営、港湾運営、海事法などの管理者、Specialist になるための教育を行う。

○ 入学資格および学生数

船長、機関長の経歴のあるものおよび既に海運業に経験の持つ大学高校卒の者を対象とし、現在の学生数はエジプト、シリア、サウジアラビア、リビア、スーダン、バハレン、イエメン等から計 24 名である。

○ 教育要員

この College の Head はアラブ側要員であるが教授陣としては、UNDP (UNCTAD) 派遣の各種専門家が長期短期にわたり授業を行っている。(資料 8、9 参照)

○ 教育内容（資料 10 参照）

一般コースは 9 ヶ月の期間で海運業の経営管理、港湾運営、海事法などの基礎的理論を教授し海運港湾関係企業体の管理者、監督者を養成し、このコース終了者には Diploma を発行する。また短期特別コースは約 1 ヶ月の期間ですでに海運港湾関係企業体の管理者監督者等責任ある者に対し、より高度な専門的な事項を教授しその主なるものは次のとおりである。

marine law, marine insurance, ship operation, contract of carriage, cargo handling and storage, documents, freight booking and forwarding, structure of a port administration, use of modern management techniques in ports, inland transport links with the ports.

その他に関係企業体のトップクラスを対象とした短期のセミナー会議なども行う。

(c) School of Specialist Seamen

甲板、機関、電気の 3 部の普通船員の養成および既成普通船員の昇進のための再教育などを行う。

○ 入学資格および生徒数

入学資格としては甲板—中学卒、機関—工業中学卒、電気—技術高校卒であり、現在生徒数甲板 24 名、機関 30 名、電気 10 名である。（機関の 1 名バハーレンを除きすべてはエジプト人で United Arab Maritime Co. の所属船員）

○ 教育要員

教育要員は Head 以下すべてアラブ側要員で充当している。（資料 11 参照）

○ 教育内容

甲板科は 3.5 ヶ月（約 500 時間）の期間で教科目の主なるものは次のとおりである。一般知識、救命艇、救命具、防火作業、錨作業、荷役、信号、沿岸航法、機関概要、水泳、海上衝突予防法、実習。

機関科は 5 ヶ月（約 500 時間）の期間で、教科目の主なものは次のとおりである。

ディーゼル機関、ボイラ、補機、船体構造、製図、電気、防火作業、工作、海事一般、実習。

電気科は 10 ヶ月（約 1,500 時間）の期間で教科目の主なものは次のとおりである。

電気工事、電気材料、電気器具、電機、ラジオエンジニアリング、ラジオ器具、レーダ、製図、工作、船用機関学、船体構造、海事一般、防火作業。

このコースを終了後 2 ヶ月の乗船実習を経て電気技手となる。

また各コースとも毎週 1 回訪船の課業がある。

(d) Research Center および Library

Research Center は参加アラブ各国の海運関係のデータを収集、研究したデータベースとしても機能しアラブ海運発展と教育上に必要な情報を提供することを目的とし、現在次の4部門がある。

1. Statistic (海運省の許可を得て年1回発行、1974年4月発行)
2. Operation Research
3. Economic Model Building
4. Technical Research

研究所要員としては、現在Headの外UNDP派遣の専門家1人、アレキサンドリア大学2人、海運省3人、事務員4名である。

また将来はコンピュータを設置し近代的科学的手法を導入する希望がある。

Libraryは発足したばかりで蔵書数も未だ5,000冊に満たず、大半がアラビア語の本であり、蔵書の内容の主なものはおりのとおりである。

Maritime Transport Statistic
Economic Ports / Harbors
Charterine Management & Business
Engineering
(資料は12、13参照)

(2) 使用言語

School of Specialist Seamenはアラビア語を使用、それ以外の教育機関では英語とアラビア語を使用している。アラビア語の授業でも専門用語は英語である。

(3) AMTAの日本に対する協力要望事項

アレキサンドリアの現地でAMTAのG.A.Moukhtar総長、M.Zakaulah IMCO Projector Manager、A.Sadek教育部長等AMTA本部の要人および各教機関の現場担当者との教回にわたる意見交換ならびに現地視察の結果、AMTA側の日本に対する協力要望事項は次のとおりまとめられる。

○ 教育機材の援助

現在は建物の進捗状況の遅れ、価格の高騰もあり機材が非常に不足している。近い将来Gadet Collegeはじめ各教育機関の学生生徒数が増加するので、至急教育機材の提供を要望している。内容としては航海計器、機関、カットモデル、スライド、掛図、オーバーヘッドプロジェクタ等各種にわたっている。

○ 専門家の派遣

各教育機関とも日本からの専門家の派遣を希望している。

○ 研修員の受入れ

研修員として Cadet College 関係で航機各 4 名がイギリスに派遣され、その他計画書にあるとおり予定されているが日本にも研修員の受入れを希望している。

また A. Sadek 教育部長が近くアメリカへ研究修に行くことになっているが、日本の協力開始以前でも AMTA のスタッフが船員教育事情の視察研修を要望している。

○ 海事関係書籍、定期出版物、研究論文、統計情報等の交換等を要望している。

G. A. Moukhtar 総長は歴史的推移から見ても世界の各国は互に協力すべきであり、日本の AMTA に対する協力の実現を確信していると述べた。

(4) 日本派遣専門家に対する待遇

UNDP からの派遣専門家と同等の待遇、特権を与えることが出来るであろう。

住居についてはアレキサンドリア市内に 3 寝室程度のものを妥当な家賃で (60~80 L.E.) で斡旋する。またアレキサンドリア市内には十分な医療・歯科医病施設がある。

6.3 エジプト政府及び UNDP との会談

(1) エジプトの海運大臣、海運省首席次官および港湾公団総裁を個別表敬し、当方の調査目的を述べるとともに AMTA に対するエジプト政府の方針等について質問したところ、大要次のような回答を得た。

(a) AMTA への日本の協力

エジプトは大古より航海の技術は持っていたが近代航海技術については、約 30 年前から英国の技術を導入して海運発展を志してきた。しかし単に英国のまねごとで終ることなく、英国以上の進んだ技術を涵養していきたい、という強い願望をもっている。エジプト政府としては、AMTA に協力し、これを成功させなければならない。建物は 1977 年に完成させるが、1975 年にはその一部を完成させる予定である。現在 UNDP の援助により専門家の派遣、機材の供与をうけているが、極めて不十分であるので、日本の援助を希望する。また先進海運国である日本に港湾管理およびコンテナの運営管理についても援助の協力を得たい。コンテナ基地の用地はスエズに近いアダベアに確保している。

(b) 新プロジェクトによる日本の協力

漁業はエジプトにとって重要な産業であるが、現在その規模、技術面において誠に貧弱であり、遠洋漁船は 5 隻 (2~3 千トン) にすぎない。5 ヶ年計画で 21 隻に拡張する計画をもっている。AMTA とは別に、日本とエジプトとの間に漁業に関する技術援助の協定を結びたい。将来その利益は単にエジプトのみならずアラブ全体に及ぶと信ずる。

(注) 港湾公団の職務の概要

船員手帳の発行	海技試験の実施	海技免状の発行	海事法規関係の監督
海運経済の研究	港湾運営管理		

(2) UNDPとの会談

UNDPのカイロ事務所の副所長安積発也氏と会談し、UNDPとAMTAとの関係等について聞いた結果、次のような回答を得た。

(a) 関係機関との協定

UNDPの対アラブ技術協力はエジプトに商船学校を設立し、海洋乗務員と陸上要員を養成する目的で5年前から準備を進めてきたものであるが、1972年2月から5年間を協力期間としIMCOが実施機関、UNCTADが援助機関（港湾と海運に関する管理、運営、経済、の研究におけるプロジェクトの実施についてIMCOを援助する）、エジプトがホスト政府となつてAMTAを援助することになった。協定調印者はUNDP、IMCOおよびバハーレン、エジプト、イラク、ヨルダン、クウェート、リビア、オマール、カタール、サウジアラビア、スーダン、シリア、アラブ首長国連邦、北イエーメン、南イエーメンの諸国である。

(b) UNDPの援助状況

(i) 援助総額2,604,900 US\$のうち、機材関係に120万\$、保守整備費6万\$を予定している。

建物の建設は当初エジプト政府が200万L.E.を予算化したが、その後AMTAの規模が拡大し、物価の値上り等により600万L.E.が必要となったため完成が甚だしく遅れている。

機材についてはUNDPとして、ある程度のもを購入したが建物の建設が遅れているため機材の注文を現在ストップしている。勿論本Projectの協定期間が終了すれば機材の所有権をAMTAに譲渡することになっている。去る7月海運省およびAMTAとの会談において、このままではUNDPは本援助から手を引くとまで強く追つたため、エジプト政府は参加国（特にサウジアラビア、クウェート）からの資金援助等を推進して今後建物建設に全力をあげる旨籠約した。

(ii) 専門家の派遣は総員18名であり延人員は660 man/monthとなる。現在College of Nautical Studiesに2名（インド、英国）、College of Maritime Studiesに2名（パキスタン、英国）を派遣し、その他にAMTAのProject managerとしてパキスタンのCapt. M. Zakauillahを派遣している。

(c) 参加国の援助

エジプト政府は土地、建物、機材等に8,253,628 L.E.を負担し、AMTAのDirector GeneralとしてCommodore G.A. Moukhtarを派遣している。参加国からは設置計画および教育遂行のための要員が派遣されているが、これらの派遣員の給与は5年間で総額130万L.E.であり、派遣国がそれぞれの派遣員について負担する。

(d) 日本のAMTAへの援助についてUNDPとしての希望

- (イ) 建物への援助（これは O T C A 援助方式では不可能の旨答えた。）
- (ロ) 機材の供与
- (ハ) 専門家の派遣
- (ニ) Counter Part の日本での訓練
- (ホ) 資金の援助（ファンド イン トラスト）

援助方式としてアラブ参加各国と協定する方法、又は A M T A と協定する方法があろうが、一番望ましいのはファンドイントラスト方式で日本が資金を I M C O を通じて A M T A に援助する方法である。

なお、日本の援助の可能性等について具体的な考えを示してくれるよう安積氏より強く望まれたのに対して、本調査団の調査目的及び立場等を詳しく説明したあと、その件については帰国後の検討を待って方針が決定されれば大使館を通じてその旨連絡されるであろうと回答した。

6.4 スエズ運河

サダト大統領は、1973年10月16日スエズ運河再開の準備開始を宣言し、1967年の中東戦争以来封鎖されていた同運河の再開により、長期にわたる戦争による財政危機を救い、恒常的な国際収支の赤字を解消しようと目下運河開発のプロジェクトを策定し、再開の準備を進めている。

我々調査団は、世界の海運、経済に大きな影響を及ぼすスエズ再開の準備情況をつぶさに視察しようとして日本大使館を通じエジプト政府にその許可を申入れていたが、幸い大使館の努力により許可を取り付けることができた。8月10日（土）エジプト政府外務省の儀典課係官、Canal Shipping Agencies Co. の Morcos 氏及び日本大使館の小島、小野両書記官の先導案内により、カイロからポートサイドまで約 300 Km の行程を車で往復し、下記のとおりその概要を知ることができた。

なお、運河一帯にわたり、エジプト軍の基地が点在し、運河全般の視察及びカメラの使用が許可されなかったのは残念であった。

(1) ポート・サイドの情況

港はすでに再開されているが、出入港船舶はまだ極めて少ない。市街は、戦斗による建物の破壊が目立ち、避難先から帰ってきた住民たちによって、いま復旧作業が急がれている。（スエズ、イスマイリア、ポート・サイドを含め 1975 年分として 6,000 万 L.E. の予算で 22,500 戸の住宅建設計画がたてられている。）

(a) 出入港

船は、エジプトの港湾灯台局の通告による規定によって、日出時から日没時までの間その出入が許されている。

(b) 現在の許容吃水

錨泊船の許容吃水は 30 ft。Cherif 棧橋では、最大吃水 21 ft の中クラスの船を同時に 3 隻横付けさせることができる。

(c) 荷 役

荷役作業は 24 時間を通して行われ、積込み及び荷揚げは、本船のデリック使用のほか、Cherif 棧橋に据付けられた 3 トン巻き移動クレーンあるいはヘビー・フローティング・クレーンによって行われる。はしけ、ひき船その他荷役作業器具類は相当数使用できるものを持っているが、そのための労働力が目下必要とされている。なお、1975 年には 1,500 万 L.B. を投じ、ポート・サイド、スエズ両港のバースやクレーン設備の建設など整備拡充が実施される予定である。

(d) 倉 庫

現在、戦斗によって破壊され修理中のものを除き、75% の保税倉庫が使用可能である。そして、1974 年末までに、戦前の最高倉庫能力のレベルまで復旧させる予定がたてられている。

(e) その他の港湾施設

燃料、清水、食料等の積込みや船舶修理のための施設等は、医療関係を除いてすべて利用可能である。また、検疫、税関、警察をはじめ、電信・電話、郵便等の公的業務は再開されており、市内のホテルも十分利用可能である。

(f) 諸料金

港湾使用料、代理店料、港湾荷役料等の諸料金は目下改正中であり、これらの一覧表は、施行決定次第用意されることになっている。

(2) スエズ運河の情況

(a) 運河再開の初段階

運河内の障害物の撤去は、スエズ一帯の地雷や不発弾の処理終了後開始し（地雷等の処理は完了間近といわれている）、6 ヶ月以内に完了する予定である。そして、運河の開通は、戦争前と同じ 38 ft の吃水が許容されるように浚渫されるのを待って再開され、油を満載した 7 万 D/W のタンカーが通航できることとなる。

（注）最近、スエズ運河公社総裁が「スエズ運河で現在進められている各種掃海作業は 1974 年 11 月に終了し、その後浚渫工事等続け、1975 年 3 月末には一応船舶の通航が可能になるだろう。」と見通しを述べたという情報がある。

（1974 年 9 月 10 日海事新聞）

(b) 運河開発プロジェクトの概要

世界タンカー船腹の増大と中東原油に対する欧米諸国の需要増大の観点から、将来、許容吃水を 67 ft にして、26 万 D/W の満載タンカー、30 万 D/W の半載タンカーの通航が可能になるような運河開発計画がたてられている。

このプロジェクトは、次の 2 段階で計画されており、その必要総経費は 5 億 1 千万 L.B. を

要する。(これは、近代的な装置や器材取付けの費用を含んだものであり、このうち、2億8千万L.E.は外貨で支払われることになっている。)

(f) 第一段階(工期3~4年)

- ① 通航可能船舶は、吃水53 ft、15万D/W級の満載タンカーまで。
- ② 運河幅の拡張のための旧護岸の破壊、堀削。
- ③ 水深の増大のための浚渫工事。
- ④ エル・ファーダン橋と運河東岸の鉄道の移動。

(g) 第二段階(工期は第一、第二段階を通じて6~7年)

- ① 通航可能船舶は、吃水67 ft、26万D/W級の満載タンカーまで。
- ② 水深増大のための浚渫工事のみ。

(c) プロジェクト立案のポイント

- ① 運河のいかなるカーブも半径5,000 m以下にならないこと。
- ② ポート・フェイドの東側に、船舶の輻奏からくる危険を防止するために、新たにバイパスを設けること。
- ③ ポート・フェイドの東側に、長さ6 kmにわたる防波堤を新設し、ポート・サイドの西側の防波堤を延長すること。
- ④ エルバラ・バイパス及びピター湖における係留柱を改良すること。
- ⑤ 運河における水先案内、航行、海難救助等は、最新の方法と機材を使用して行えるように図ること。

(d) スエズ運河Pilotの資格要件

現在スエズ運河は閉鎖中であるが、近い将来再開された場合はかなりのPilotが必要となるが、Pilotになるための資格は次の通りである。

- ① 船長免状を所有し、2年以上の乗船履歴があること(免状はどの国のものでもよい)。
- ② 6カ月ないし1年間、スエズ運河において実地の実習をすること。

Pilotの任命はSuez Canal Authorityが行う。

7. 所 見

7.1 援助の必要性

AMTAは、アラブ14ヶ国及びパレスチナが参加して建設中の海洋乗務員養成機関であり、アラブ諸国の海運発展のための礎石となる人材を養成しようとするものである。これは決して偶発的なものではなく、アラブ人自身が真にアラブ諸国の発展を願い、ひいては全世界の平和的発展に寄与しようとする民族的な願望によって発生したものである。従って、アラブ各国から派遣された代表者であるAMTAの総長始めあらゆる part の幹部は勿論下級職員に至るまで、すべて異常なほどの熱意をもってAMTAの完成に向って努力し、その運営に精励している。

AMTAはUNDP(IMCO, UNCTAD)の援助を受けて1972年に発足し、本校舎完成まで仮校舎において不完全な教育を開始しつつ教官、教材等の整備に努力しているのであるが、UNDPの援助には限度があり、またアラブ諸国の負担にも限度があるため日本に対する協力の要請には極めて強いものがある。我々調査団が現地において調査、視察の際会ったすべてのそれぞれの幹部は、日本からの expert の派遣、教育機材の供与及び counter part の養成等の援助に対する切実な願望を訴えた。また、エジプト政府の海運大臣、首席次官及びUNDPカイロ駐在副所長からもAMTAへの援助に対する強い要請があった。

アラブ諸国は、我が国から見ればあらゆる面で遅れている発展途上国である。その中でアラブ人の先覚者達がさまざまな苦難を乗り越えつつ努力している真しな姿を見ると、先進国日本として経済的、技術的な援助の手をさしのべることは当然の義務ではないかと感ぜられる。

これらについては現地駐在大使も全く同意見であり、むしろ我々調査団に対しアラブ各国の諸情勢を詳細に説明され、積極的に援助すべきであることを強調された。

7.2 援助の方法

AMTAに対する日本からの援助の方法としては、次のような方法が考えられる。

(1) AMTA全体に対するセンター方式による援助

AMTA全体を対称として、必要な expert の派遣、機材の供与、counter part の養成をセンター方式によって行う。これは、AMTAの構成、現状及び将来計画からみて最も効果的な方法であり、AMTA側の要望にも合致する。

(2) Cadet College に対するセンター方式による援助

Cadet College は、初級船舶士官の養成機関であるが、他の機関が1年以内の短期コースであるのに比べ、修業年限が4年以上の長期コースであり、養成定員も多く、将来は定員を600名に増加し University とする計画で、このため建設中の校舎、施設の約2分の1がこれにあてられることになっている。すなわち、Cadet College はAMTAの中心的教育機関となるもので

あるから、これに対する expert の派遣、機材の供与、Counter part の養成等についてセンター方式によって援助することは、大きな効果があるものと考えられる。

(3) Expert 派遣のみの援助

AMTA の要請に応じて 2 ないし 3 名程度 expert を派遣して援助する方法もあるが、この場合は援助の効果をあげるためにできる限り expert が携行できる教育機材を多くすることが望まれる。

(4) 高級研修員及び Counter part の養成に対する援助

AMTA は、現在創設期にあるので、その教育を計画し実施する幹部の研修と Counter part の養成は急務となっている。従って、これら幹部及び Counter part の養成を日本で援助することが必要で、特に AMTA の総長あるいは教育部長等高級幹部の日本での研修を早期に実現させることが望ましい。

(5) 資金による援助

UNDP あるいは IMCO に資金を提供し、これによって AMTA を援助する方法も考えられる。

以上述べた援助の方法のうち(1)又は(2)のようなセンター方式による方法が最も好ましいと思われるが、この援助方式はセンター方式と云っても従来行われてきたものとは趣を異にしている。センター方式は本来「無」のものについて専門的な expert や機材等を大々的に援助することを建前としてきているが、今回の場合は不完全ながら一応器もでき、料理もある程度できつつある状態のところへ援助しようとするものであるから、従来の方え方を変更しない限りセンター方式は不可能となる。

しかしながら、アラブ 14 カ国の海洋乗務員を養成するため計画している立派な教育施設に対し、日本から援助するとすれば、かなり大きな援助をしない限り、その援助効果は期待できない。日本の技術や経済に対するアラブ諸国の信頼を確立するためにも、従来センター方式にとらわれず、このような新しいセンター方式による援助が実現されるように希望したい。

7.3 援助する場合における窓口

援助する場合、その協定の相手すなわち窓口がどうなるかは、派遣前から問題となっていたところであって、Arab League は日本として正式に認めていないので、エジプト政府と協定を結ぶことが最良であるとの意見が多かった。従って、当初在エジプト日本大使館において窓口の問題点があることを説明したところ、大使は、

- ① Arab League を相手とすることは、絶対不可能とはいえない。
- ② UNDP 及びアラブ諸国（エジプトを Host government として）と協定を結ぶ。
- ③ 代表としてエジプト政府と協定を結ぶ。

等いろいろ考えられるが、これらについては大使館として充分努力するつもりであるとのことであった。

現在、UNDPは上述の②による方法で協定を結んでいるが、エジプト政府はHost役としてアラブ14カ国の間に立ち、いろいろな面で苦勞しているので、再びHost役を引き受けるかどうか疑問に思われる。これらは、いずれも外交上解決しなければならない問題であるが、単に窓口のみのために援助の実現が不可能となることのないよう、その解決についての尽力をお願いしたい。

7.4 結 語

今回の調査にあたっては、現地日本大使館の絶大な協力と配慮を得、またエジプト政府及びAMTAの熱意ある協力によって初期の調査目的を達成することができたことに対し衷心より感謝の念に堪えない。我々調査団もその熱意に応えるべく昼は関係者との会合あるいは現地調査、夜は当日の調査事項の確認、整理及び翌日の調査事項等についての討議、準備等極めて多忙な毎日を通した。幸い団員一同健康で事故もなく無事任務を果し得たことは望外の喜びとするところである。

A.M.T.A. 本部における主要会議の際の団長の挨拶

1. 第1回打合せ会議(8月4日)における挨拶

第1回打合せ会議開催にあたり、調査団長として一言ご挨拶申し上げます。

本日はご多用中、私共のためにこのような meeting の機会を与えて下さったことに対し、Moukhter 総長始めご出席の Academy 関係者の皆様に団員を代表して心からお礼を申し上げます。

さて、私共調査団員5名は、Moukhter 総長から在エジプト日本大使館を通じて要請がありました本 Academy に対する日本の協力が、どの分野において可能性があるかを調査する目的で派遣されたもので、この目的を遂行するため本日から数日にわたり Academy の内容について種々お聞きし、また直接現場を見学させていただきたいと思っております。

なお、私共の今回の調査は、あくまで本 Academy の現状の把握であり、協力の可能性については帰国後今回の調査結果によって十分検討されることになっておりますが、もし協力可能となれば更に具体的な協力内容を調査するための事前調査団が派遣されることになるであろうと思います。

本日は時間もあまりありませんので、先づ最初に本 Academy 設立の経緯と現状及び将来の計画の概要についてお聞かせ願いたい。即ち

- (1) 本 Academy は、いつごろからどのような member でどのような話し合いのもとに発足したのか。
- (2) 本 Academy の管理事務組織の概要。
- (3) 各コースの種類、設立目的、教官数等。
- (4) 今後どのような計画、方針のもとに運営されるか。

等についてお話し願いたい。

2. 最終打合せ会議(8月8日)における挨拶

本日は、私共の調査に関する最終打合せ会議が開催されるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

去る8月3日私共調査団が当地に参りましてから本日まで、私共の目的である A.M.T.A. の調査についてはもち論、あらゆる面で Moukhter 総長始め Academy 関係者ご一同から絶大なご協力とご厚意をいただきましたことに対し、団員一同を代表して心から感謝する次第でございます。

さて、去る4日から数日に亘り、何回かの meeting と現在の教育施設及び Abu-Qir の Academy 建設現場の見学により、当 Academy の教育体形、将来計画及び現状の概要を知ることができ、私共の調査目的のほとんど全部を達成することができました。

数日に亘るこの調査が終った現在、以下2、3点について私共のきたんのない所感を申し述べ

たいと思います。

(1) A.M.T.A.の施設の建設計画について

Academy 建設地の選定、敷地の大きさ、各建物の規模、配置及び設計等は誠に申し分なく、このような立派な計画を樹て実施に移しつつあることに対し、深く敬服するとともに、できるだけ早くこれら建物の建設が完成されるよう祈ります。

建物の一部は1975年にでき上り、1977年には全部が完成される計画であると承りましたが、これらの施設が全部完成された暁には、Maritime Transportに関する教育施設を1カ所に集合した一大Academyとして世界にも類のないすばらしい施設となるものと信じます。

(2) A.M.T.A.の現在の教育施設及び教育方針等について

各コース共現在仮校舎で施設が不十分であるにもかかわらず、立派な教育方針のもとに実施計画を樹てられ、着々と成果をあげておられますが、これは関係者ご一同のご努力の結果によるものと深く敬服する次第です。

Seamen Schoolでは、多数の生徒が実習されているところを見学しましたが、教官と生徒とが一体となって熱心に勉学されているのを直接拝見し、彼等は必ずや立派なSeamenとなってアラブ海運のため有用な人となるであろうと感じました。

(3) A.M.T.A.に対する日本の協力について

本Academy に対する日本の協力については、当初Moukhter総長から、また各コース視察の際それぞれのHead から、そしてまた昨日Sadock 教育部長からも種々要請がありました。現在、この4日間における調査結果の取りまとめ及びそれらの検討が不十分であり、今日ここで協力の可能性あるいはその内容等について申し上げることができないことを残念に思います。私共が承った皆様からのご要求が、どのような形で実現可能か、私共のみでは不明であります。と申しますのは、日本の協力には一定の方式があつて、それらのどれかの方式にあてはまらないと不可能となる場合があるからです。これらの方式については、帰国後Japan International Cooperation Agencyの専門官に検討して貰うことになると思います。いずれにしても私共調査団は、ご要望のような協力の必要性は十分理解することができましたので、今後全力をあげてその実現に努力したいと思っております。

最後に、重ねて今回の訪問に際して受けたご厚意に対し、厚くお礼申し上げます。

(附) エジプト政府海運大臣表敬挨拶(8月5日)

本日はご多用中、閣下とお会いする機会を与えて下さいましたことは、誠に光栄であり、深く感謝致しております。

私共は、当地に建設されつつあるArab Maritime Transport Academyに対し、どのような分野において日本の協力の可能性があるかどうかを技術的に調査する目的で参りまし

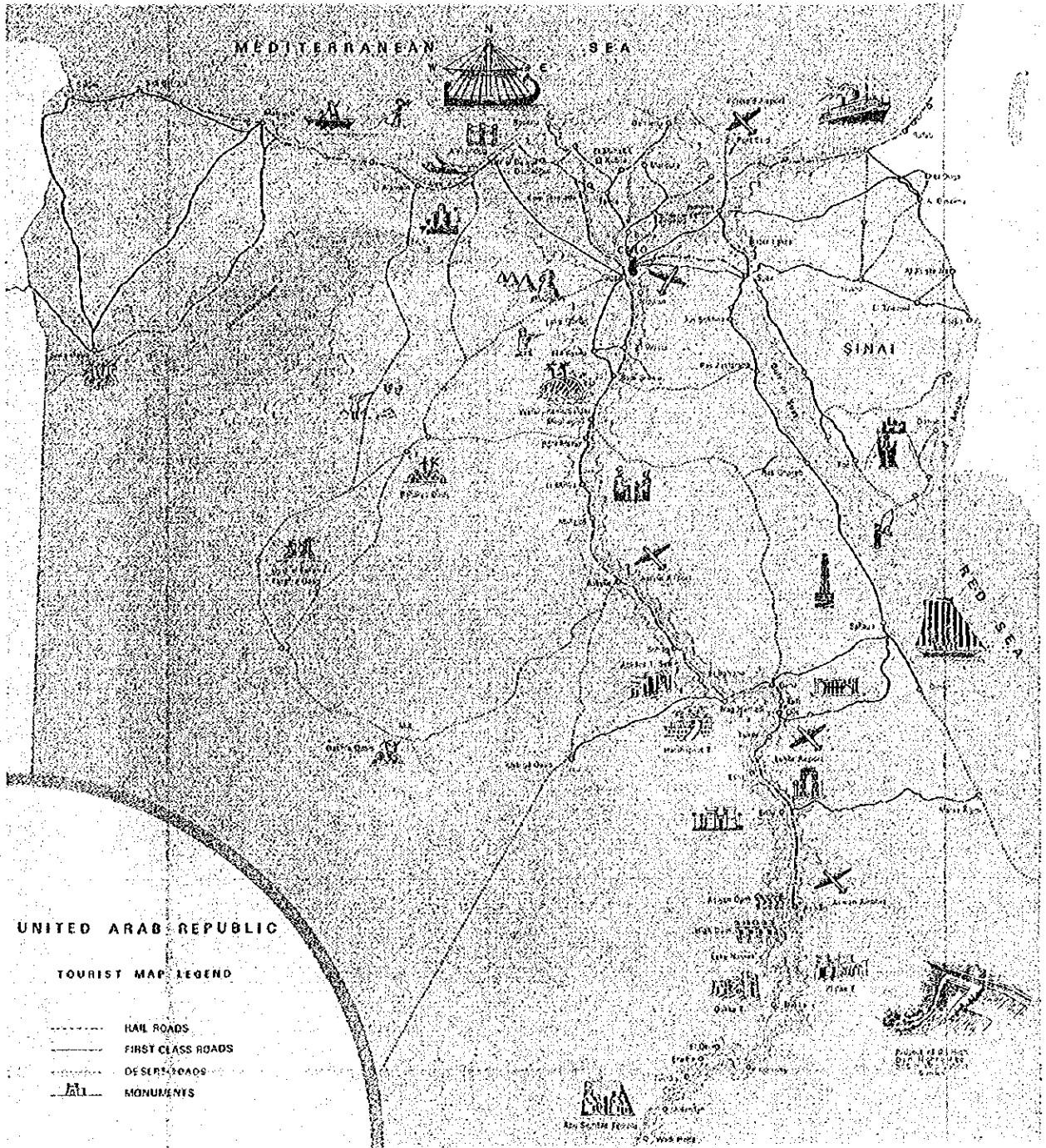
た。

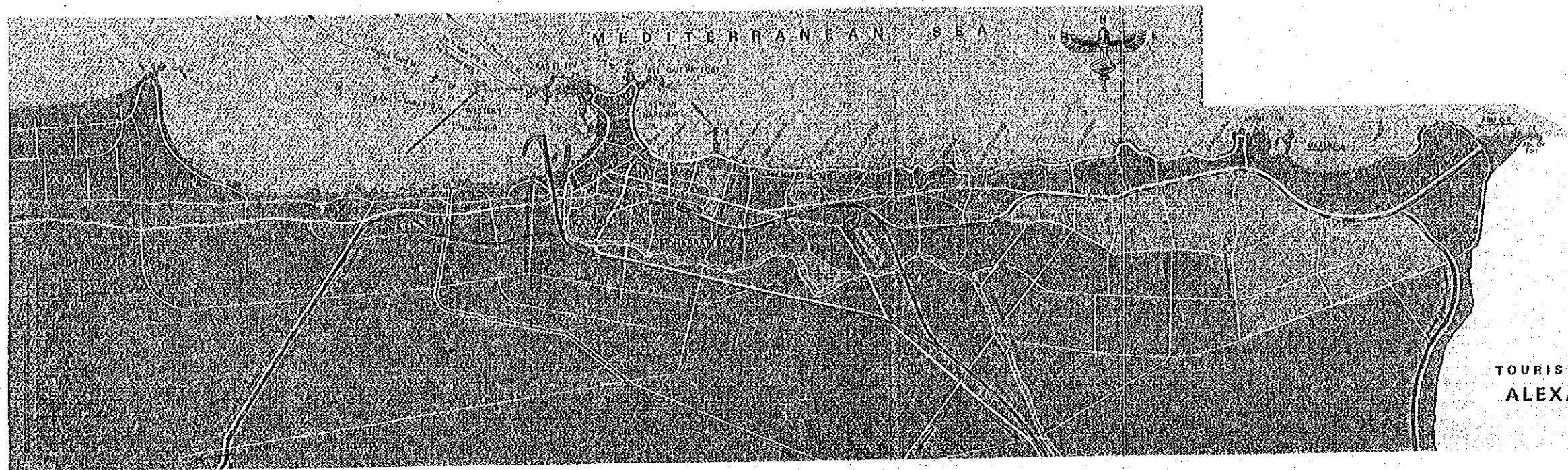
本 Academy の設立に当りましては、建物等施設の建設は貴国が負担されているとのこと
でございますが、校舎その他必要な施設の建物が諸種の事情で甚だしく遅延していると聞い
ております。

この機会に、貴政府が本 Academy に対し今後取られる方針及び措置等に関しお聞かせ願
えれば幸甚と存じます。

資料名——番号

- 資料 1 A M P A 本部における主要会議の際の団長挨拶
- " 2 Project Document
- " 3 Regional Maritime Training Institute
- " 4 Quotionnarie
- " 5 Guide Syllabus for Navigation Cadets(C.C)
- " 6 Guide Syllalus for Engineering Cadets(C.C)
- " 7 Guide Syllabus Nautical Studies
- " 8 College of Maritime Transport
- " 9 College of Maritime Transport
- " 10 College of Maritime Transport Syllabus of Diploma Course
- " 11 Specialist Seamen School
- " 12 Librory System
- " 13 Library Chart
- " 14 Laws Concerned with Seafarers in Egvost
- " 15 Subjects of interest
- " 16 Sueg Canal





TOURIST MAP OF
ALEXANDRIA

3
6
F